

事例 17

バリアフリー改修事例シート(アセスメント・計画・効果検証)

I. バリアフリー改修に向けた現況アセスメントシート

I-1 住宅の基本属性

住所	大阪府大東市	所有区分	持家	所有者	対象者本人
建て方	戸建て	構造/階数	木造/2階建	延べ床面積	118.4㎡(1階80.33㎡、2階38.09㎡)
建築時期	昭和56年	増改築歴	無		

I-2 改修前の対象者本人及び家族の状況

1)対象者と世帯の状況	対象者の氏名(ふりがな)		年齢(生年月日)/性別	83歳 男
	同居世帯構成(続柄、年齢)	・夫婦のみ世帯 ・対象者(夫)、妻(77歳)	非同居の家族(続柄、性別、年齢、所在地)	・子供は結婚し、孫もいる
2)対象者の心身状況	身長/体重	(不明)	病気の有無/疾病名/具体の状況	有 ⇒3年前に喀血したが原因不明
	身体障害の有無と具体の状況	無	障害の種類/手帳の状況	無
	認知症の有無と具体の状況	無		
3)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	認定済み ⇒要支援1		
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月の回数、曜日)	無	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無
4)対象者の生活状況	生活行動範囲	・自宅内の全て(1階及び2階)	住宅での生活階(就寝場所、食事場所、日中長くいる場所、生活時の姿勢)	・就寝場所:2階の寝室 ・食事場所:台所に接続した1階和室 ・日中長くいる場所:台所に接続した1階和室 ・生活時の姿勢:床座
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	・自宅内で過ごすことが多いが、近所への散歩など外出も時々する。	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	—
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	—	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲/負担感等)	—
5)主介助者の状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	有 ⇒妻。膝・腰が悪いが大きな病気は無く、要介護認定は受けていない。	役割と介護内容	・見守り程度
	社会生活(就労状況、近所・友人づきあい、自由時間、外出等)	・近所づきあいはある。 ・自由時間はあり。	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	・それほど負担と思っていない。

I-3 改修前の対象者本人の基本的生活行為の状況

1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:妻		食事の支度	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:妻
	洗濯	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:妻		掃除	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:妻
	その他家事①	-		その他家事②	-
2)移動方法と具体の状況	屋内移動	歩行移動 ⇒独歩		屋外移動	歩行移動 ⇒常時杖を所持し、必要に応じて杖を使用して移動
3)生活行為別の動作能力の具体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		本人 ※1	介助者 ※2	具体の状況:(例:手すりを使い、トイレに行くことと排泄行為は自立、衣類の着脱のみ介助が必要。)	
	排泄	4		・トイレまでの移動は、一人で何とかできるが、時間がかかり不安定である。 ・便器に座ったり、立ち上がったりの動作は一人で何とかできるが、不安定である。	
	入浴	4		・浴室までの移動は、一人で何とかできるが、時間がかかり不安定である。 ・浴室(洗い場)や浴槽への出入りは、一人で何とかできるが、不安定である。	
	洗面	4		・浴室までの移動は、一人で何とかできるが、時間がかかり不安定である。	
	更衣	5		・一人で楽にできる。	
	食事	5		・一人で楽にできる。	
	就寝	5		・一人で楽にできる。	
	移動・外出	4		・屋内の移動は、一人何とかできる。時間をかければ段差を越えることも可能である。 ・歩行時にふらつく時があるため、屋外(外出時)は見守りが必要である	

I-4 改修前の住宅の状況と問題点(部位別)

部位	住宅の具体的な状況と問題点
1)寝室	<p><2階></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入口に約2cmの段差がある。入口の段差につまずき転倒する危険がある。
2)便所	<p><1階></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入口に4cmの段差がある。出入りの際に敷居につまずき転倒する危険がある。 <p><2階></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入口に約4cmの段差がある。入口の段差につまずき転倒する危険がある。
3)浴室	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口の敷居段差4cm。出入りの際に敷居につまずき転倒する危険がある。 ・洗面脱衣室との床の段差約8cm。タイル床は滑りやすい為、転倒する危険がある
4)洗面・脱衣室	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口が開き戸であり、150度ぐらいしか開くできない。段差につまずき転倒する危険がある。転倒する危険がある。 ・出入口の敷居段差が約2.5cmある。洗面所に入るのに扉が進行の妨げとなる。
5)食堂・台所	<ul style="list-style-type: none"> ・居室との間に約3.5cmの段差がある。段差につまずき転倒する危険がある。
6)居間	無
7)廊下	<p><1階></p> <ul style="list-style-type: none"> ・居室・トイレ・DK・洗面脱衣室との間に段差が約3.5cmある。各場所への移動の際に段差につまずき転倒する危険がある。 <p><2階></p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段を上がったホールに面してトイレがあるが、出入口付近に手すりがない。トイレに行く際にふらつくことがあり、階段から転落する危険がある。
8)階段	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりがない。歩行が不安定であり、階段昇降時にふらつき階段から転落する危険がある。
9)玄関	<ul style="list-style-type: none"> ・上がり框の高さ約33cm。昇降が困難である。
10)玄関から前面道路までのアプローチ	無
11)その他	無

II. バリアフリー改修の計画シート

II-1 改修に対する要望と目的

1)改修に対する要望	対象者からの具体的要望	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行時にふらつくことがあるので、床段差・敷居段差を解消したい。 ・階段昇降時や玄関・2階トイレへの移動の際などにふらつくことがあり危険なため、手すりを設置したい。 ・浴槽のまたぎが高くて危険なため、浅い浴槽と交換したい。 		
	介助者や同居家族からの具体的要望	<ul style="list-style-type: none"> ・妻らかも、妻自身も膝・腰が悪いため浴槽は浅いものに変更して欲しい。 ・その他もバリアフリーになるのであれば改修してほしい。 		
2)改修の目的 ※最大の目的に◎、関係する目的に○を記入	対象者のための改修の目的※	◎	①日常生活行動能力の維持	具体的内容： ・床段差・敷居段差を解消し、安全性を確保する。 ・各所に手すりを設置し、安全性を確保する。 ・浴槽を浅いものに改修し、安全性・入浴の容易性を確保する。
		◎	②移動や動作の安全性の確保	
		○	③移動や動作の容易性の確保	
		○	④生活行動範囲の確保・拡大	
		○	⑤その他()	
	○	⑥介護・介助負担の軽減	具体的内容： ・	
○	⑦その他()			

II-2 改修のプロセス

1)専門家の関与	関わった専門家の職種と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・市の理学療法士(PT)：対象者のADL確認、アセスメント表作成、改修案の提示 ・建築士(2名)：市のPTと改善内容を確認しながら改修案の検討・作成、改修図面作成、補助事業関連書類作成 ・改修実施設計団体の作業療法士(OT)：アセスメント、改修の評価等の実施。 ・ケアマネジャー1名：介護保険関係(UB工事など)の申請
	専門家間の意見調整により決定・変更した点	<役割・調整方法> ・市のPTが、建築士が立ち会う以前に、対象者本人と直接面談し、相談済み。改修内容のコンセプトをあらかじめ検討していた。 ・その後、建築士が市のPTの作成した対象者のADLを確認。また、改修内容のコンセプトはPTから建築士に口頭で伝えられ、PTと建築士が具体的な改修内容や工事方法を検討。現地において、対象者及び介助者である妻と話し合いを行いながら改修案を決定していった。 <建築士が関わったことで決定・変更された点> ・段差解消のため、2階ホールの床高さの変更を提案したが、費用等の関係から実現しなかった。 ・玄関に段差解消機を設置することが可能であることを提案したが、今回の改修(現状のADL)ではまだ必要でないことから、実現しなかった。 ・将来的に介護が必要になった場合にベッドを置くことを考え、寝室を和室から洋室に変更することを提案したが、対象者の希望により、実現しなかった。 ・結果として、概ね当初PTが作成した改修内容(コンセプト)のとおりとなり、建築士が仕様や工法等の詳細を決定した。
2)検討の技術的プロセス	本人の身体状況の将来変化に向けて配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・将来的に階段昇降に危険を感じるようになった場合は、2階にある寝室を1階に移すことを、対象者に提案・説明した。
	同居家族のために配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ・同居している妻(介助者)も高齢のため、段差解消や手すりの設置は妻にとってもバリアフリーとなった。 ・DKの床の嵩上げに伴い、流し台も同様に嵩上げをするか妻と打合せを行った。設備の改修費用を自己負担する必要があったため、既存高さのままとしたが、他の居室やホールとの段差がなくなったため、使い勝手が良くなった(妻の加齢による身体状況の変化に対応)。
	外部からの介護サービス者のために配慮した点	無
	シミュレーションの実施の有無と具体的な状況	無

福祉器機、設備等の試し使い等の有無と具体的状況	・建築士がユニットバスのメーカー2社に訪問。バリアフリー仕様等の確認を行った。(訪問回数 計2回)
空間・予算等の制約により苦労した点	・1階ホールは床を35mm嵩上げした。当初より階段の1段目だけ他の蹴上より20mmほど高かったため、改修後は階段1段目が逆にその他の蹴上よりも約15mm低くなるが、従前よりも蹴上げ高さの差が小さくなるため、安全の範囲内とした。ただし、一段目は上がる感覚が今までと違うことを対象者に説明し、必ず手すりを握って昇降するようお願いをした。
空間・予算等の制約により実現できなかった点	・2階のトイレ床とホールは少し段差が残ることから2階ホール全体を上げようとしたが、階段の蹴上(踏面)を調整する必要があり、階段の改修工事は予算的にも難しかった。このため、2階廊下の床レベルは現況のままとした。 ・また、2階トイレのタイル張りを調整して段差を解消する事も提案したが、対象者の意向で現状のままとした。 ・玄関ポーチの段差解消を提案したが、費用等の問題から実施しないこととなった。

II-3 スケジュールと費用

1)検討スケジュール	相談経緯と相談期間	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年12月3日(初回訪問) ・妻からの依頼。 ・当初、浴室の改修工事などを知り合いの業者に依頼していたが、せっかく改修するなら全面的にバリアフリー化しようと考え、ケアマネジャーを通じて市のPTに相談があった。そこで、ケア連携型バリアフリー改修補助事業のことを知り、改修の相談を実施することになった。
	設計期間	・平成22年12月5日～平成23年2月8日(この間、4回訪問)
	工事期間	<ul style="list-style-type: none"> ・工事:平成23年2月9日～22日(この間、3～4回訪問。また、工事完工時に1回訪問) ・評価:平成23年2月末(工事内容の評価)
2)費用	当初予算額	—
	工事費総額と費用負担額	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費総額:約262万円 ・自己負担額:約190.8万円 ・補助金等:ケア連携型バリアフリー改修補助事業補助金 約53.2万円、介護保険住宅改修18万円 ・建築設計料・工事監理料:24万円(内、補助金16万円)

II-4 改修の具体的内容と技術的工夫点(部位別)

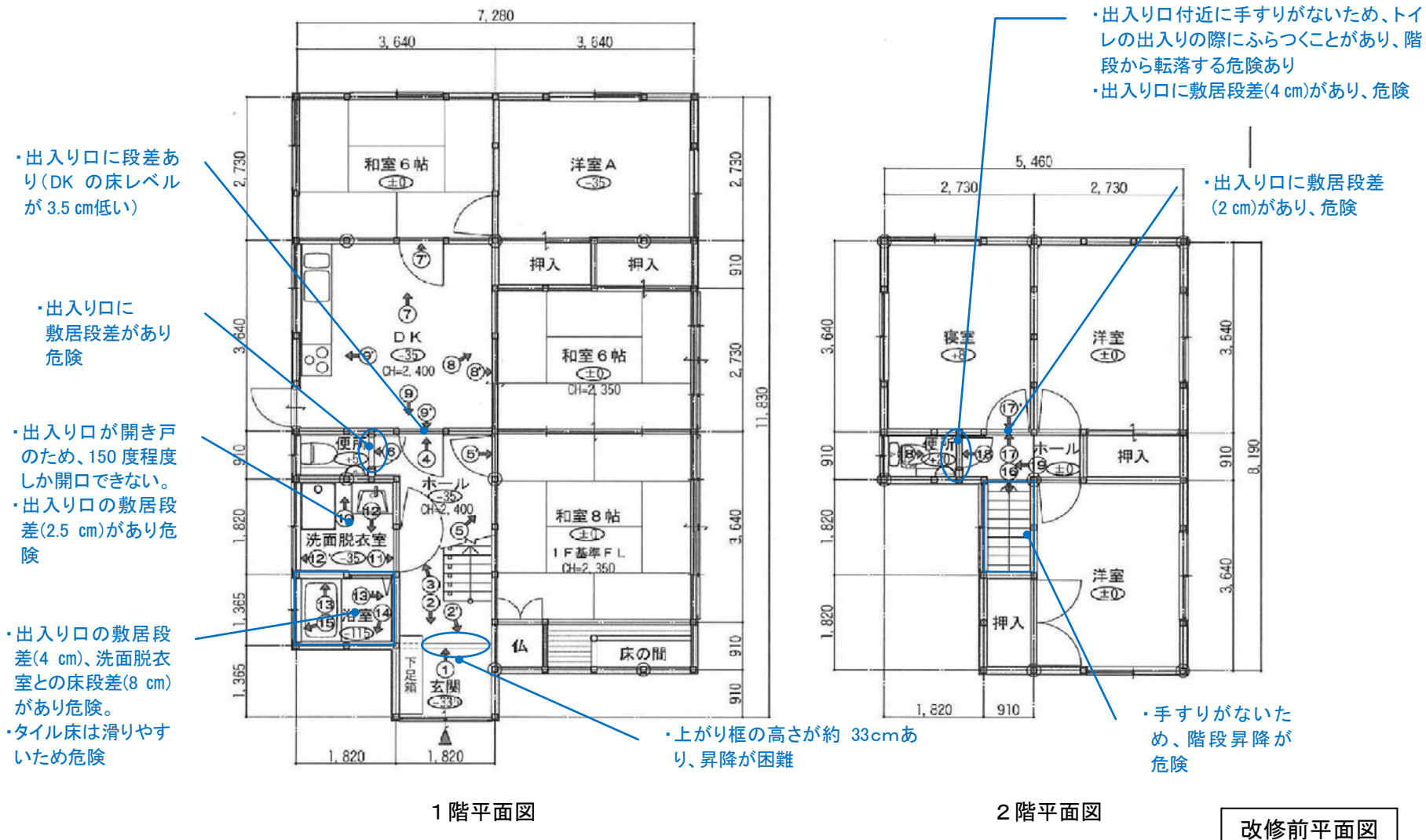
(※改修の目的は、改修の具体的内容別にII-1 2)改修の目的の①～⑦から番号を選択して記入)

部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
1)寝室	②	・2階寝室とホールとの敷居段差の解消。	
2)便所	②	・1階便所の床を1階ホールの床に併せて嵩上げをし、段差を解消。	
		・2階便所の敷居段差の軽減。	・2階トイレについては納まり上、少し段差が残る為、手すりを設けることで移動の安全に配慮した。
3)浴室	②	・手すりの設置。	・本人の握力などを確認した上で、工事中に手すり径・グリップ形式・位置高さのシミュレーションを実施。
		<ul style="list-style-type: none"> ・UB化工事。 ・床の段差解消。 ・跨ぎの浅い浴槽への更新。 	・浴槽の跨ぎの安全性に配慮した。
4)洗面・脱衣室	②	<ul style="list-style-type: none"> ・段差の解消。 ・開き戸を引き戸に変更。 	・洗面・脱衣室の床を1階ホールの床に併せて嵩上げを実施した。
5)食堂・台所	②	・和室との段差の解消。	・台所の床を1階ホールの床とともに嵩上げをすることにより階段の蹴上げ高さが変化することに配慮した。
6)居間			

部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
7)廊下	②	・1階ホールの床を台所の床とともに嵩上げし、和室との段差の解消。	・1階ホールの床を嵩上げすることによる階段の蹴上げ高さが変化することに配慮した。
		・2階ホールへの手すりの設置。	・ふらつかないように、トイレの出入り時(扉を開ける際)の安全に配慮した。
8)階段	②	・手すりの設置。	・本人の握力などを確認した上で、工事中に手すり径・グリップ形式・位置高さのシミュレーションを実施した。
9)玄関	②	・手すりの設置。 ・段差の解消。	・玄関框の跨ぎ及び靴の着脱に配慮しL型手すりとした。 ・本人の握力などを確認した上で、工事中に手すり径・グリップ形式・位置高さのシミュレーションを実施した。
10)玄関から前面道路までのアプローチ	②	・手すりの設置。	・本人の握力などを確認した上で、工事中に手すり径・グリップ形式・位置高さのシミュレーションを実施した。
11)その他		・省エネ改修工事(エコキュート設備の導入)。	
		・洗面台の取り替え。	

II-5 改修前後の図面

改修前の図面(部位別の主な問題点をコメント、引き出し線で注記)



出所:改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

改修後の図面(部位別の主な改修内容をコメント、引き出し線で注記)

DK f-3(芯々一部内法)
0.64x1.06+3.00x3.64=11.60㎡

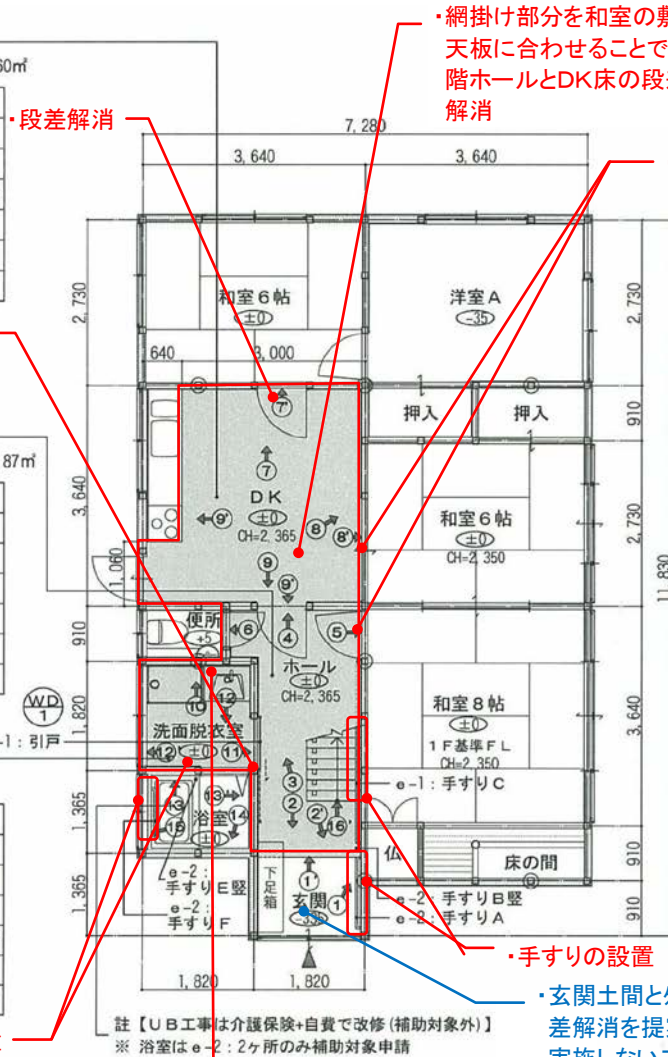
DK仕上	
天井	既存 化粧PB
改修	既存のまま
壁	既存 PBt12.5+ビニルクロス
改修	既存のまま
床	既存 寄木フローアー
改修	フローリング

ホール f-3(芯々)
2.275x0.91+1.82x3.185=7.87㎡

ホール仕上	
天井	既存 PBt9.5+ビニルクロス
改修	既存のまま
壁	既存 銘木合板
改修	既存のまま
床	既存 フローリング
改修	フローリング

洗面脱衣室 f-3(芯々)
1.82x1.82=3.30㎡

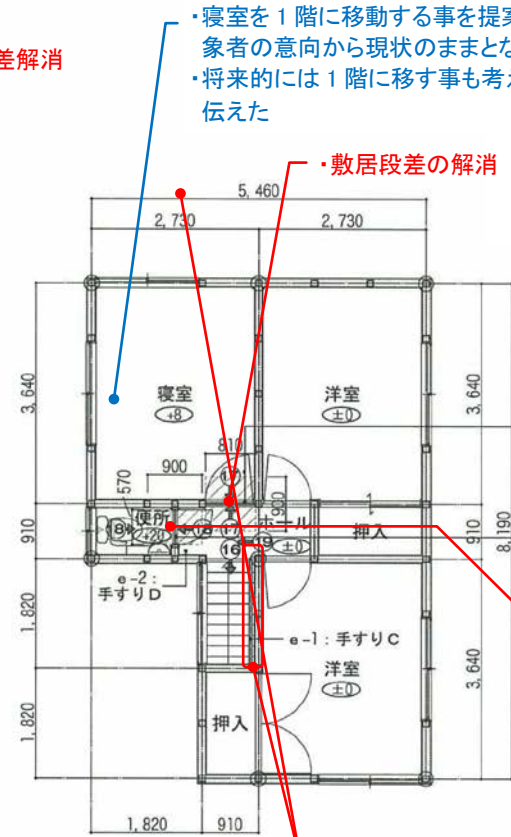
洗面脱衣室仕上	
天井	既存 化粧PB
改修	PBt9.5+ビニルクロス
壁	既存 塗壁(腰:タイル)
改修	PBt12.5+ビニルクロス
床	既存 寄木フローアー
改修	C Fシート(防滑)



1階平面図

凡例

記号 ①: 写真番号(撮影方向)を示す。



2階平面図

改修後平面図

出所: 改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

・手すりの設置
(入浴時の移動・立ち上がり動作
等の安全を確保するため)

・段差解消

・開き戸→引き戸
・段差解消

・網掛け部分を和室の敷居
天板に合わせることで1
階ホールとDK床の段差
解消

・段差解消

・寝室を1階に移動する事を提案したが、対
象者の意向から現状のままとなった
・将来的には1階に移す事も考えてほしいと
伝えた

・敷居段差の解消

・敷居段差の解消
・トイレ床とは少し段差が
残ることから2階ホール
全体を上げようとした
が、階段の蹴上が変わ
ってしまうため、現状の
ままとした
・また、トイレのタイル張
りを調整して段差を解
消する事も提案した
が、対象者の意向で現
状のままとした

・手すりの設置

・玄関土間と外部の玄関ポーチの間の段
差解消を提案したが、費用等の問題から
実施しないこととなった

・介護保険+自費にて別途UB工事を
施し、床の段差解消と跨ぎの高さを小
さくした

・手すりの設
置

Ⅲ. バリアフリー改修の効果検証シート

Ⅲ-1 改修後の対象者本人及び家族の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
1)対象者の心身状況	病気、障害、認知症等の状況	無	
2)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	無	
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月あたりの回数、曜日)	無	
	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無	
3)対象者の生活状況	生活行動範囲	無	
	住宅での生活階／就寝場所／食事場所／日中長くいる場所／生活時の姿勢	無	
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	無	
	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	無	
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	無	
	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲／負担感等)	有／無	
	4)主介助者の生活状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	無
	役割と介護内容	無	
	社会生活(就労状況、近所・友人づきあい、自由時間、外出等)	無	
	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	有	・移動時などの介助の負担が低減された。

Ⅲ-2 改修後の対象者本人の基本的生活行為の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)		
1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	無			
	食事の支度	無			
	洗濯	無			
	掃除	無			
	その他家事	無			
2)移動方法と具 体の状況	屋内移動	無			
	屋外移動	無			
3)生活行為別の 動作能力の具 体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守 りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助で きる		変化の有無	本人 ※1	介助者 ※2	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
	排泄	有	5		・2階ホールへの手すりの設置により、階段への転落が防止でき、安心してトイレに行けるようになった。
	入浴	有	5		・浴室の手すりの設置及び低い浴槽への更新により、入浴時の移動及び浴槽の出入りが安全になった。
	洗面	有	5		・床段差及び敷居段差の解消により、安全に移動できるようになった
	更衣	無			
	食事	無			
	就寝	有	5		・階段の手すりの設置により、2階寝室への階段昇降が安全になった。 ・寝室の敷居段差解消により、寝室への出入りが安全に行えるようになった。
	移動・外出	有	5 (屋内) 4 (屋外)		・玄関の手すりの設置により、安全に移動できるようになった。 ・床段差及び敷居段差の解消により、住宅内を安全に移動できるようになった

Ⅲ-3 改修の総合評価

1)改修の総合評価	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・ふらつきや移動時などの不安をなくすために、段差解消・適切な手すりの設置工事を行い、住居内の移動が安全にできるようになったことにより、本人の QOL の向上効果は大きい。 a)玄関の手すりの設置により、安全に移動できるようになった。 b)床段差及び敷居段差の解消により、安全に移動できるようになった。 c)浴室の手すりの設置及び低い浴槽への更新により、入浴時の移動及び浴槽の出入りが安全になった。 d)階段の手すりの設置により、階段昇降が安全になった e)廊下の手すりの設置により、階段への転落が防止でき、安心してトイレに行けるようになった f)寝室の敷居段差解消により、寝室への出入りが安全に行えるようになった。
	介助者・家族	<ul style="list-style-type: none"> ・同居する妻にとっても介助の負担が低減されたこと、及びバリアフリー改修によって得られた安心感は大きな効果が見られる。
2)改修による 思わぬ効果・ 生活の変化 等	本人	無
	介助者・家族	無
3)当初希望した内容が実際の改修で異なった点と理由	本人	無
	介助者・家族	無
4)改修を行った上での今後の課題	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関からポーチ、道路に至るまでの外部のアクセス経路に段差が残っており、外出時の安全性の確保が課題である。外出が安全で無理なくできることで、社会とのつながりを確保できることが、本人の QOL を高める重要な要素であると考えており、この点が今後の課題である。 ・加齢に伴う身体機能の変化に対応していくことが必要となる。
	介助者・家族	無

事例 18

バリアフリー改修事例シート(アセスメント・計画・効果検証)

I. バリアフリー改修に向けた現況アセスメントシート

I-1 住宅の基本属性

住所	大阪府大東市	所有区分	持家	所有者	対象者の夫
建て方	戸建て	構造/階数	木造/2階建	延べ床面積	約82.0㎡(1階47.2㎡、2階34.8㎡)
建築時期	(不明)	増改築歴	無		

I-2 改修前の対象者本人及び家族の状況

1)対象者と世帯の状況	対象者の氏名(ふりがな)		年齢(生年月日)/性別	87歳 女
	同居世帯構成(続柄、年齢)	・親夫婦+長男夫婦 ・対象者(87歳)、夫(82歳)、長男(55歳)、長男の妻(55歳)	非同居の家族(続柄、性別、年齢、所在地)	—
2)対象者の心身状況	身長/体重	(不明)	病気の有無/疾病名/具体的な状況	有 ⇒下肢筋力低下
	身体障害の有無と具体的な状況	無	障害の種類/手帳の状況	無
	認知症の有無と具体的な状況	有 ⇒軽度であるが、認知症の症状が見られる。		
3)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	認定済み ⇒要支援1		
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月の回数、曜日)	無	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無
4)対象者の生活状況	生活行動範囲	・住宅1階	住宅での生活階(就寝場所、食事場所、日中長くいる場所、生活時の姿勢)	・就寝場所:1階真ん中の部屋(本人の居室) ・食事場所:DK ・日中長くいる場所:本人の居室 ・生活時の姿勢:
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	—	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	—
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	—	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲/負担感等)	—
5)主介助者の状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	有 ⇒長男の嫁(身体状況:健康)	役割と介護内容	・見守り程度
	社会生活(就労状況、近所・友人づきあい、自由時間、外出等)	・働いている。 ・近所づきあいはある。	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	・それほど負担とっていない。

I-3 改修前の対象者本人の基本的生活行為の状況

1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者: 長男の妻		食事の支度	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者: 長男の妻
	洗濯	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者: 長男の妻		掃除	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者: 長男の妻
	その他家事①	-		その他家事②	-
2)移動方法と具体の状況	屋内移動	歩行移動 ⇒ゆっくりとつたい歩き		屋外移動	歩行移動 ⇒介助による移動(一人で外出することなし)
3)生活行為別の動作能力の具体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		本人 ※1	介助者 ※2	具体の状況:(例:手すりを使い、トイレに行くことと排泄行為は自立、衣類の着脱のみ介助が必要。)	
	排泄	4		・トイレまでの移動は、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・排泄動作はゆっくりであるが一人で何とかできる。 ・手洗いは自立してできる。	
	入浴	4		・脱衣所までの移動や浴室への出入りは、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・入浴動作は自立してできる。	
	洗面	4		・洗面所までの移動は、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・洗面動作はイス座で自立してできる。	
	更衣	4		・一人で何とかできる。	
	食事	3		・食事動作に見守りや介助が必要。 ・食卓までの移動は、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。	
	就寝	4		・一人で何とかできる。	
	移動・外出	4		・ゆっくりとつたい歩きで、一人で何とか移動できる。	

I-4 改修前の住宅の状況と問題点(部位別)

部位	住宅の具体的な状況と問題点
1)寝室	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の部屋との敷居段差があり危険。 ・廊下との敷居段差があり危険。
2)便所	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下との段差(敷居段差、トイレの床が廊下よりも 50 mm低い)があり危険。 ・開き戸で幅が狭い(幅 600 mm)ために使いにくい。 ・和便器であり、手すりがないためトイレ動作が不安定。 ・居室からの動線が悪い。
3)浴室	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりがないため、浴室への出入りが不安定で危険。
4)洗面・脱衣室	無
5)食堂・台所	無
6)居間	無
7)廊下	無
8)階段	無
9)玄関	無
10)玄関から前面道路までのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・階段状の段差(70～80 mmが連続)となっており危険。
11)その他	無

Ⅱ. バリアフリー改修の計画シート

Ⅱ-1 改修に対する要望と目的

1)改修に対する要望	対象者からの具体的要望	・歩くのが不安なため、安全に移動できるようにしたい。		
	介助者や同居家族からの具体的要望	<p><息子夫婦からの要望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行が不安定なため、一人で移動しても転ぶことがないように、トイレ・浴室等への移動動線にある段差を解消してほしい。 ・将来の身体状況の悪化時(車いす生活等)のことを考えた改修をしてほしい。 		
2)改修の目的 ※最大の目的に◎、関係する目的に○を記入	対象者のための改修の目的※	◎	①日常生活行動能力の維持	具体的内容: ・床段差・敷居段差を解消し、安全性を確保する。 ・各所に手すりを設置し、安全性を確保する。
		◎	②移動や動作の安全性の確保	
		○	③移動や動作の容易性の確保	
			④生活行動範囲の確保・拡大	
			⑤その他()	
	家族のための改修の目的※		⑥介護・介助負担の軽減	具体的内容:
			⑦その他()	

Ⅱ-2 改修のプロセス

1)専門家の関与	関わった専門家の職種と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー1名 ・市の理学療法士(PT):対象者のADL確認、改修案の提示。 ・建築士(2名):改修案の検討・作成、仕様書作成。
	専門家間の意見調整により決定・変更した点	<ul style="list-style-type: none"> ・市のPTが、建築士が立ち会う以前に、対象者本人と直接面談し、相談済み。改修内容のコンセプトをあらかじめ検討していた。 ・その後、市のPTの作成した対象者のADLを建築士が確認するとともに、PTの検討した改修コンセプトが建築士に口頭で伝えられた。 ・PTと建築士が現地調査を行い、対象者に確認を取りながら、建築士が具体的な改修内容や工事方法を検討した。
2)検討の技術的プロセス	本人の身体状況の将来変化に向けて配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、車いす生活になった場合を考慮し、戸を大きく開けるようにするため、寝室・廊下間の引き戸を2枚から3枚引き戸に変更した。 ・将来、車椅子移動になった場合でも使えるように配慮してトイレを設計した(開き戸→引き戸に変更。トイレ面積拡大、便座の位置及びトイレの入り口位置の変更等)。
	同居家族のために配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者(夫)も高齢のため、必然的に、室内移動の安全性やトイレ動作の容易性確保が求められた(夫は打合せに参加していないため、動作確認等は行っていない)。 ・将来的にトイレ介助が必要となった場合の介助空間確保への配慮として、トイレ面積の拡大及び出入り口の拡幅、引き戸化を行った。
	外部からの介護サービス者のために配慮した点	無
	シミュレーションの実施の有無と具体の状況	無
	福祉器機、設備等の試し使い等の有無と具体の状況	無
	空間・予算等の制約により苦労した点	無 (トイレ面積を拡大する際に、階段に重ならないかの確認が必要となったが、大きな制約とはならなかった。)
	空間・予算等の制約により実現できなかった点	無

II-3 スケジュールと費用

1)検討スケジュール	相談経緯と相談期間	<ul style="list-style-type: none"> 市社会福祉協議会に勤務する対象者の孫から、市のPTに住居改善相談の依頼があった。孫は現地調査にも同行したほか初回打合せにも立ち会った。 現地調査前に1回、現地調査1回訪問。いずれもPTが同行。
	設計期間	<ul style="list-style-type: none"> 改修設計期間:4日
	工事期間	<ul style="list-style-type: none"> 改修工事期間 :7日 (訪問2回) 工事内容確認評価:2日 (訪問2回)
2)費用	当初予算額	
	工事費総額と費用負担額	<ul style="list-style-type: none"> 工事費総額:約118.6万円 自己負担額:約81万円 補助金等:ケア連携型バリアフリー改修補助事業補助金 約37.6万円 建築設計料・工事監理料:24万円(内、補助金16万円)

II-4 改修の具体的内容と技術的工夫点(部位別)

(※改修の目的は、改修の具体的内容別にII-1 2)改修の目的の①～⑦から番号を選択して記入)

部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
1)寝室	②	<ul style="list-style-type: none"> 寝室と廊下、寝室と(玄関脇の)板の間との間の敷居段差の解消(既存敷居の撤去及び新設)。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常歩行移動時の安全性を確認した。
	② ⑥	<ul style="list-style-type: none"> 寝室と廊下間のドアを2枚引き戸から3枚引き戸に変更。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来車いす生活になった場合の対応のしやすさを考慮した(開口幅を大きく開けることができるようにするため)。
2)便所	② ③	<ul style="list-style-type: none"> トイレの入口幅を拡げ(階段室の押入を縮小)、ドアを開き戸から引戸に変更、敷居段差の解消(敷居の撤去及び新設)。 トイレの床を嵩上げし廊下との段差の解消。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常歩行移動時の安全性を確認した。
		<ul style="list-style-type: none"> 便器の位置を奥(台所)側に移動。 トイレのドア位置を奥の台所側から手前の居室側に移動。 	<ul style="list-style-type: none"> 居室(寝室)から便座までの移動のしやすさに配慮した。
		<ul style="list-style-type: none"> 手すりの設置(L型)。 	<ul style="list-style-type: none"> ふらつきへの対応として、本人の移動能力を考慮してL型手すりを設置した。
		<ul style="list-style-type: none"> 面積の拡大 和風便器を洋風便器に変更。 	<ul style="list-style-type: none"> 介助容易性に配慮した。 便座への立ち座りの容易性を考慮した。
3)浴室	②	<ul style="list-style-type: none"> 手すりの設置(縦型)。 	<ul style="list-style-type: none"> 浴室出入りの不安定さの解消。安全性の確保のため、本人の移動能力を考慮して縦型手すりを設置した。
4)洗面・脱衣室	②	<ul style="list-style-type: none"> 敷居段差、床段差の解消(DK・洗面所間の敷居の撤去及び新設)。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常歩行移動時の安全性について確認した。
5)食堂・台所	②	<ul style="list-style-type: none"> DKと廊下間の敷居段差の解消(敷居の撤去及び新設)。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常歩行移動時の安全性について確認した。
6)居間			
7)廊下			
8)階段			
9)玄関			
10)玄関から前面道路までのアプローチ			
11)その他			

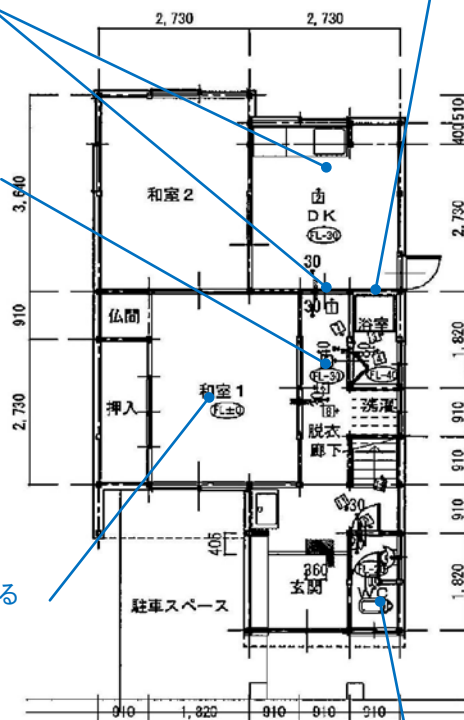
II-5 改修前後の図面

改修前の図面(部位別の主な問題点をコメント、引き出し線で注記)

- ・出入口の敷居の段差(3cm)があり、危険
- ・出入口の扉がガラス戸で、ぶつかると割れる危険あり
- ・ガスコンロの火加減を感覚で利用。火災の危険あり
- ・床材が滑りやすく危険

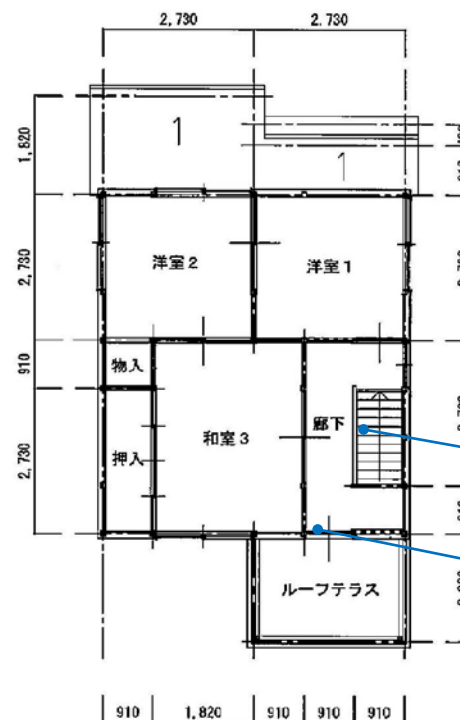
- ・和室との段差(3cm)あり
- ・脱衣室として利用しているが、窓枠が木製のため冬場寒い
- ・床が木製で滑りやすく、冬場寒い

- ・出入口がガラス戸で、ぶつかると割れる危険あり



1階平面図

- ・出入口に段差(1cm)があり、危険
- ・壁をさぐりながら浴槽への出入りを行うため、入浴動作が安定せず転倒する危険あり
- ・給湯器がないため、屋外の追い焚き窯にガスをつけに行く必要。移動する際に転倒の危険あり
- ・シャワーがないため、浴槽のお湯を手探りで汲む必要あり
- ・窓際が木製のため、冬場は寒い



2階平面図

- ・手すりがなく、階段昇降が危険

- ・出入口用の窓の立ち上がりが33cmあり危険

- ・出入口の敷居が3cm、床の段差が2cmあり、危険
- ・和式便器であるため、場所が分かりにくい(手探りで確認する必要あり)
- ・出入口の間口幅(50cm)が狭く、出入りしにくい
- ・男子用と女子用に分かれており、女子トイレに洋式便器を設置すると狭くなり、立ち上がり動作が困難
- ・窓枠が木製のため冬場寒い
- ・床が木製で滑りやすく、冬場寒い

改修前平面図

出所: 改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

改修後の図面(部位別の主な改修内容をコメント、引き出し線で注記)

- ・キッチン扉をガラス→樹脂ガラスに交換(市補助)
- ・ガスコンロ→音声案内付IHコンロに交換

DK

f-3, h (芯々)
2.73×3.13=8.54 m²

DK仕上	
天井	既存のまま
床	既存 フローリング 改修 合板t15+t12 CFシート
壁	既存のまま

浴室

浴室仕上	
天井	既存のまま
床	既存のまま
壁	既存のまま

脱衣・廊下

f-3, h, m-6 (芯々)
1.315×1.82=2.393
0.91×3.64=3.312
0.91×0.91=0.828
計 6.533 → 6.53 m²

脱衣・廊下仕上	
天井	既存のまま
床	既存 フローリング 改修 構造用合板t24 +合板t15 CFシート
壁	既存のまま

便所

a-2, d-1 (芯々)
0.91×0.91=0.82 m²
d-2, f-3, m-6 (芯々)
0.91×1.82=1.66 m²

便所仕上	
天井	既存のまま
床	既存 タイル 改修 構造用合板t24 +合板t15 CFシート
壁	既存のまま

- ・ガラス戸→樹脂ガラス戸に交換

- ・駐車スペースのモルタル等の補修(自費工事)

- ・玄関ドアの交換(自費工事)
- ・手すり(L型)設置

- ・網かけ部の段差解消工事により、脱衣室と浴室の段差は拡大
- ・手すりの設置により対応

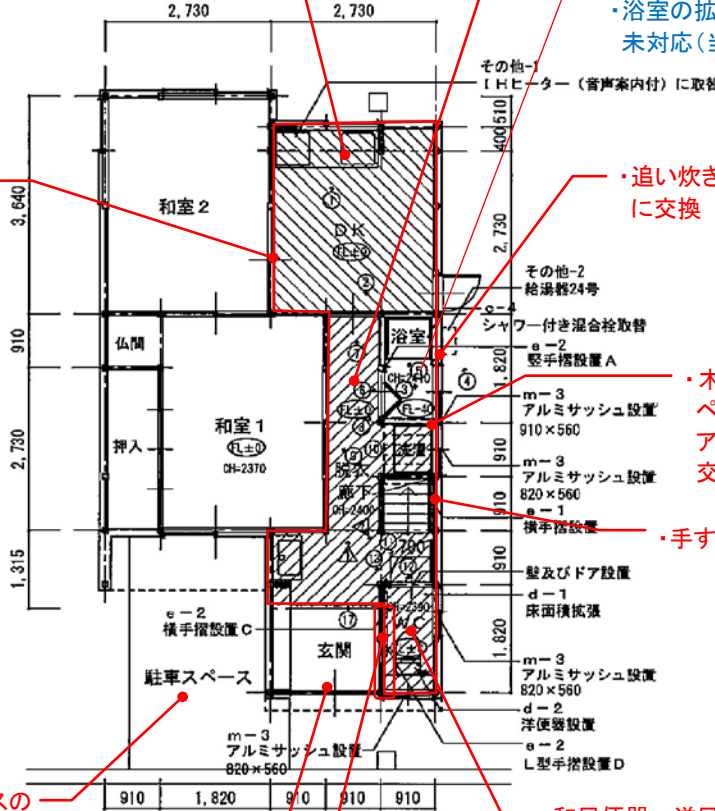
- ・シャワーなし→シャワー付混合栓の設置(入浴動作の自立)
- ・浴室の拡張も検討したが、今回は未対応(当人が健康のため)。

- ・追い炊き窯→給湯器に交換

- ・木製サッシペアガラスのアルミサッシに交換

- ・手すりの設置

- ・和風便器→洋風便器

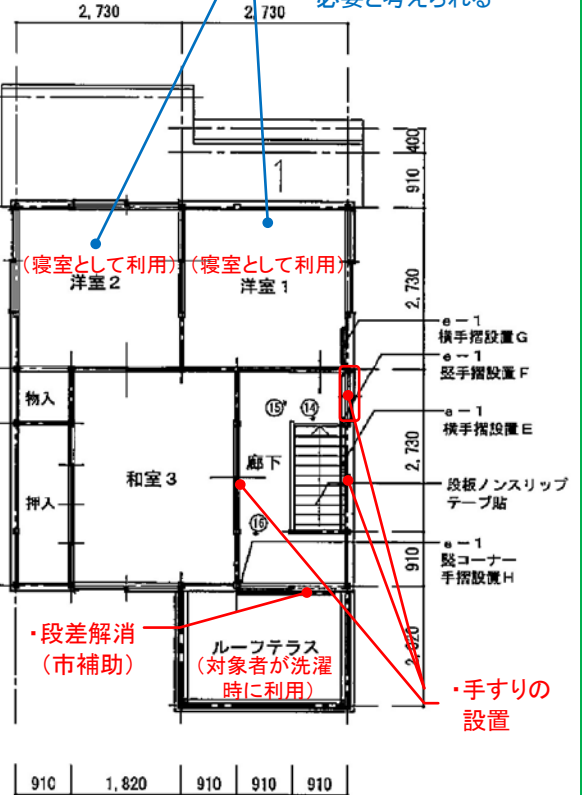


1階平面図

- ※自費工事
- ・柱や梁の不良箇所の補強・取り換え
- ・内装不良部のやりかえ

記号 ▲ : 工事中写真番号
記号 ① : 完了写真番号

- ・将来的には寝室を1階にすることが必要と考えられる



2階平面図

改修後平面図

出所: 改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

Ⅲ. バリアフリー改修の効果検証シート

Ⅲ-1 改修後の対象者本人及び家族の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
1)対象者の心身状況	病気、障害、認知症等の状況	無	
2)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	無	
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月あたりの回数、曜日)	無	
	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無	
3)対象者の生活状況	生活行動範囲	無	
	住宅での生活階／就寝場所／食事場所／日中長くいる場所／生活時の姿勢	無	
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	無	
	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	無	
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	無	
	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲／負担感等)	有／無	
	4)主介助者の生活状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	無
	役割と介護内容	無	
	社会生活(就労状況、近所・友人つきあい、自由時間、外出等)	無	
	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	有	・移動時などの介助の負担が低減された。

Ⅲ-2 改修後の対象者本人の基本的生活行為の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)		
1)家事の実施状況 (実施の有無／実施する場合の問題／本人が実施しない場合の実施者)	買い物	無			
	食事の支度	無			
	洗濯	無			
	掃除	無			
	その他家事	無			
2)移動方法と具体の状況	屋内移動	無			
	屋外移動	無			
3)生活行為別の動作能力の具体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		変化の有無	本人※1	介助者※2	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
	排泄	有	5		・トイレの改修(和式便座から洋式便座への変更等)により、排せつ動作が楽になった。
	入浴	有	5		・浴室入り口への手すりの設置により、出入りが安全に行えるようになった。
	洗面	有	5		
	更衣	無			
	食事	有	5		・食堂への移動が安全になった。
	就寝	有	5		・寝室からの／寝室への移動が安全になった。
移動・外出	有	5		・日常生活空間の移動動線の段差解消により、寝室からトイレ、DK、洗面への移動に安全な動線が確保された。	

Ⅲ-3 改修の総合評価

1)改修の総合評価	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活空間の移動動線の段差解消により、寝室からトイレ、DK、洗面への移動に安全な動線が確保された。 ・トイレの改修(和式便座から洋式便座への変更等)により、排せつ動作が一人で楽にできるようになった。 ・浴室入り口への手すりの設置により、出入りが安全に一人で楽にできるようになった。
	介助者・家族	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの面積拡大や入口位置の変更により、楽にトイレ動作ができるようになったとともに、将来の介助が必要となった際にも容易に対応できることが期待される。
2)改修による 思わぬ効果・ 生活の変化 等	本人	無
	介助者・家族	無
3)当初希望した内容が実際の改修で異なった点と理由	本人	無
	介助者・家族	無
4)改修を行った上での今後の課題	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関ポーチへのアプローチ部分に段差(10 cm程度と7~8 cm前後の2段)が残っており、将来、車椅子移動となった場合にはスロープで対応することを検討する必要がある。(PT意見) ・門扉から玄関ポーチへのスロープ設置は奥行き確保で困難と思われる。玄関ドマを下げてアプローチ部分の段差を解消し、玄関に段差昇降機を設置する方法もあるが、基礎のフーチングの影響を考慮する必要がある。10 cm以下の段差なら車椅子でも介助者がいれば対応可能であるため、玄関から玄関ポーチをフラットにし、玄関に段差昇降機を設置することで対応することが現実的と考える。(建築士意見)
	介助者・家族	無

事例 19

バリアフリー改修事例シート(アセスメント・計画・効果検証)

I. バリアフリー改修に向けた現況アセスメントシート

I-1 住宅の基本属性

住所	大阪府大東市	所有区分	持家	所有者	対象者本人
建て方	戸建て	構造/階数	木造/2階建	延べ床面積	(不明)
建築時期	(不明)	増改築歴	無		

I-2 改修前の対象者本人及び家族の状況

1)対象者と世帯の状況	対象者の氏名 (ふりがな)		年齢(生年月日) /性別	80歳 女
	同居世帯構成 (続柄、性別、年齢)	・世帯構成はひとり親(対象者)＋ 子(娘) ・対象者(80歳)、娘(53歳)	非同居の家族(続 柄、性別、年齢、所 在地)	－
2)対象者の心身状況	身長/体重	(不明)	病気の有無/疾 病名/具体の状 況	有 ⇒座骨神経痛
	身体障害の有無 と具体の状況	無	障害の種類/手 帳の状況	無
	認知症の有無と 具体の状況	無		
3)対象者の介護状況	介護認定状況・ 要介護度	認定済み ⇒要支援2		
	介護サービスの 利用状況 (サービス内容別の 1週間、1ヶ月の回 数、曜日)	無	福祉用具の利用 状況 (利用内容別の貸 与と購入状況)	無
4)対象者の生活状況	生活行動範囲	・住宅1階	住宅での生活階 (就寝場所、食事場 所、日中長くいる場 所、生活時の姿勢)	・就寝場所:1階玄関脇の洋室 ・食事場所:1階DK ・日中長くいる場所:1階DK。居 間 ・生活時の姿勢:床座
	1日の標準的な生 活 (起床から就寝ま でのタイムスケジ ュール)	・手押し車で近所へ外出すること が多い。	1週間の標準的 な生活 (曜日別の外出行 動、行先、頻度等)	－
	社会生活 (近所付き合い、相 互に訪ねあう友人、 訪問してくる友人 等)	有 ⇒社会的で、近所への外出も多い	対象者の意欲等 (気持ち・意欲・生活 態度・自立への意 欲/負担感等)	－
5)主介助者の状況	介助者の有無 (年齢、性別、対象 者との続柄、健康状 況)	・有 ⇒娘(健康)	役割と介護内容	・見守り程度
	社会生活 (就労状況、近所・ 友人づきあい、自由 時間、外出等)	・毎日勤めに出ている。	介助者の負担感 等 (身体的・精神的負 担感等)	・それほど負担と思っていない。

I-3 改修前の対象者本人の基本的生活行為の状況

1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:娘		食事の支度	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:娘
	洗濯	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:娘		掃除	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:娘
	その他家事①	-		その他家事②	-
2)移動方法と具体的な状況	屋内移動	歩行移動 ⇒ゆっくりとつたい歩き		屋外移動	歩行移動 ⇒シルバーカー(手押し車)を利用
3)生活行為別の動作能力の具体的な状況 【本人※1】 1:できない・しない 2:ほぼ全介助が必要 3:一部の介助や見守りが必要 4:一人で何とかできる 5:一人で楽にできる 【介助者※2】 1:介助が大変 2:何とか介助できる 3:安全で楽に介助できる		本人 ※1	介助者 ※2	具体的な状況:(例:手すりを使い、トイレに行くことと排泄行為は自立、衣類の着脱のみ介助が必要。)	
	排泄	4		・一人で何とかできる。 ⇒トイレまでの移動は、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ⇒排泄動作はゆっくりであるが一人で何とかできる。 ⇒手洗いは自立してできる。	
	入浴	4		・一人で何とかできる。	
	洗面	4		・一人で何とかできる。	
	更衣	4		・一人で何とかできる。	
	食事	3		・一部の介助や見守りが必要。	
	就寝				
移動・外出	4		・屋内の移動は、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・屋外の移動は、調子の良い時は手押し車を押して自力でできるが、調子の悪い時は介助が必要な時もある。		

I-4 改修前の住宅の状況と問題点(部位別)

部位	住宅の具体的な状況と問題点
1)寝室	無
2)便所	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレと廊下との間の出入り口に、敷居のまたぎ段差(トイレ側 12 mm段差、廊下側 24 mm段差)があり危険。 ・手すりがないため、トイレ動作が不安定。
3)浴室	無
4)洗面・脱衣室	無
5)食堂・台所	無
6)居間	無
7)廊下	無
8)階段	無
9)玄関	<ul style="list-style-type: none"> ・上がり框の段差があり、上り框に手すりがないため、段差の昇降動作が危険。
10)玄関から前面道路までのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関から門扉までのアクセス部分が凹凸のある敷石舗装のため、段差が多く、手押し車での移動、歩行が困難(将来、車いすを利用することになった場合も移動が困難)。
11)その他	無

Ⅱ. バリアフリー改修の計画シート

Ⅱ-1 改修に対する要望と目的

1)改修に対する要望	対象者からの具体的要望	<ul style="list-style-type: none"> ・安全かつ容易に移動できるようにしたい。 ①寝室からトイレへのつたい歩きを安全、容易にしたい。 ②寝室から玄関へのつたい歩きを安全、容易にしたい。 ③外出時の敷地内のシルバーカー(手押し車)での歩行を安全、容易にしたい。 		
	介助者や同居家族からの具体的要望	<p><同居する娘></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出時の移動を安全かつ容易にしてほしい。 ・廊下が長いので安全に移動するための手すりを設置(手すりを連続させたい)してほしい。 		
2)改修の目的 ※最大の目的に◎、関係する目的に○を記入	対象者のための改修の目的※	◎	①日常生活行動能力の維持	具体的内容: ・寝室からトイレへのつたい歩きの安全性と容易性の確保。 ・寝室から玄関へのつたい歩きの安全性と容易性の確保。 ・外出時の敷地内の手押し車での歩行の安全性と容易性の確保。
		○	②移動や動作の安全性の確保	
		○	③移動や動作の容易性の確保	
		○	④生活行動範囲の確保・拡大	
		○	⑤その他()	
	○	⑥介護・介助負担の軽減	具体的内容: ・	
○	⑦その他()			

Ⅱ-2 改修のプロセス

1)専門家の関与	関わった専門家の職種と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー1名 ・市の理学療法士(PT):対象者のADL確認、改修案の提示。 ・建築士(2名):改修案の検討・作成、仕様書作成。 ・改修設計実施団体の理学療法士(PT):改修工事後の評価等の実施。
	専門家間の意見調整により決定・変更した点	<ul style="list-style-type: none"> ・市のPTは、建築士が立ち会う以前に、対象者本人と直接面談し、相談済み。改修内容のコンセプトをあらかじめ検討していた。 ・その後、市のPTの作成した対象者のADLを建築士が確認するとともに、PTの検討した改修コンセプトが建築士に口頭で伝えられた。 ・PTと建築士が現地調査を行い、対象者に確認を取りながら、建築士が具体的な改修内容や工事方法を検討した。 ・対象者は、見知らぬ男性と会う(会話する)ことを拒むため、建築士は直接面談していない。
2)検討の技術的プロセス	本人の身体状況の将来変化に向けて配慮した点	無
	同居家族のために配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりの設置により排便時の移動動作を容易にし、また、スロープの設置により外出時の移動を容易とすることで、介助者の負担を軽減した。
	外部からの介護サービス者のために配慮した点	無
	シミュレーションの実施の有無と具体の状況	無
	福祉器機、設備等の試し使い等の有無と具体の状況	無
	空間・予算等の制約により苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下への手すりの設置について、廊下の途中に幅1間分の押入があり、手すりを連続させることが難しい箇所があった。 ・そのため、押入部分には、跳ね上げ式(遮断機型)の手すりを設置することで、押し入れの機能をつぶさずに、手すりの連続性を持たせた。
	空間・予算等の制約により実現できなかった点	無

II-3 スケジュールと費用

1)検討スケジュール	相談経緯と相談期間	<ul style="list-style-type: none"> ・担当ケアマネジャーからの相談があり、市の PT が訪問にて、対象者から相談を受けた。 ・その後、建築士と PT が同行訪問にて住宅改修相談を受けた。 	訪問回数7回 ・PT 単独 2 回 ・建築士と同行 2 回 ・建築士単独 1 回 ・NPOPT2 回
	設計期間	・改修設計期間:3 日	
	工事期間	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事期間 :10 日 ・工事内容確認評価:1 日 	
2)費用	当初予算額		
	工事費総額と費用負担額	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費総額:約 70.5 万円 ・自己負担額:約 36.2 万円 ・補助金等:ケア連携型バリアフリー改修補助事業補助金 約 34.3 万円 ・建築設計料・工事監理料:24 万円(内、補助金 16 万円) 	

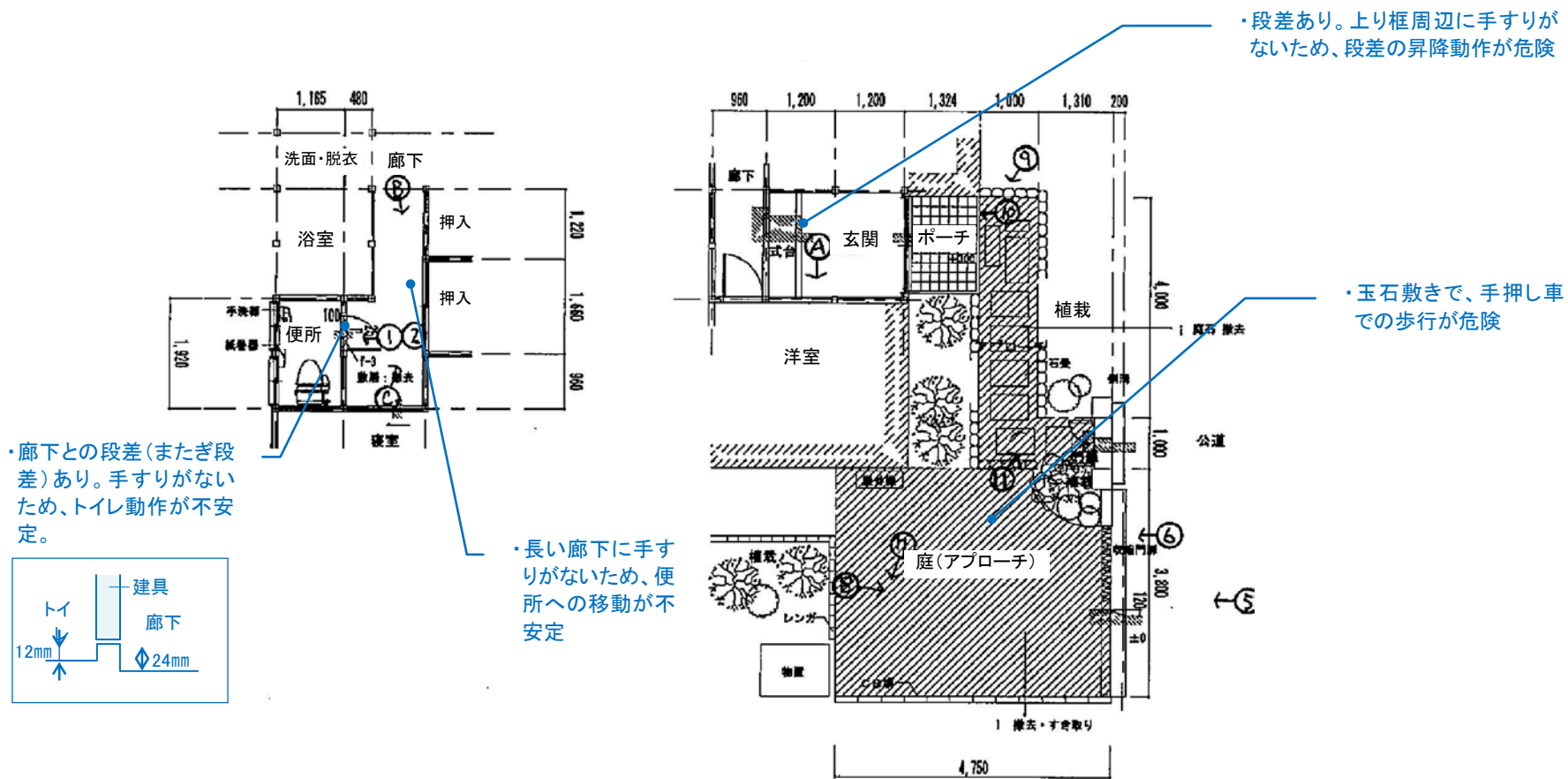
II-4 改修の具体的内容と技術的工夫点(部位別)

(※改修の目的は、改修の具体的内容別に II-1 2)改修の目的の①～⑦から番号を選択して記入)

部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
1)寝室			
2)便所	②	・敷居変更による段差解消。	・動作シミュレーションにより、単純段差の移動の可能性を確認し、廊下・トイレ間の敷居を撤去し、またぎ段差を 12mm の単純段差とした。
		・手すり(縦型、L型)の設置。	・トイレの立ち座りを容易にするため、対象者の握力確認と動作シミュレーションの実施し、手すりの位置や形状を決定した。
3)浴室			
4)洗面・脱衣室			
5)食堂・台所			
6)居間			
7)廊下	②	・手すりの設置(途中、遮断機式手すりを設置)。	・廊下に手すりを連続させたかったが、途中に一間分の押入があった。そのため、押入部分には跳ね上げ式(遮断機式)手すりを設置した。
8)階段			
9)玄関	②	・玄関の上がり框部分に手すり(L型)設置。	・対象者の握力確認と動作シミュレーションを実施し、手すりの位置や形状を決定した。
10)玄関から前面道路までのアプローチ	② ③	・玄関アプローチのスロープ化(玉石敷きのアプローチを土間コンクリートに変更)。	・手押し車での屋外歩行を安全かつ容易にするため、敷地条件の中でできる限り緩やかなスロープとなるように工夫した。
11)その他			

II-5 改修前後の図面

改修前の図面(部位別の主な問題点をコメント、引き出し線で注記)

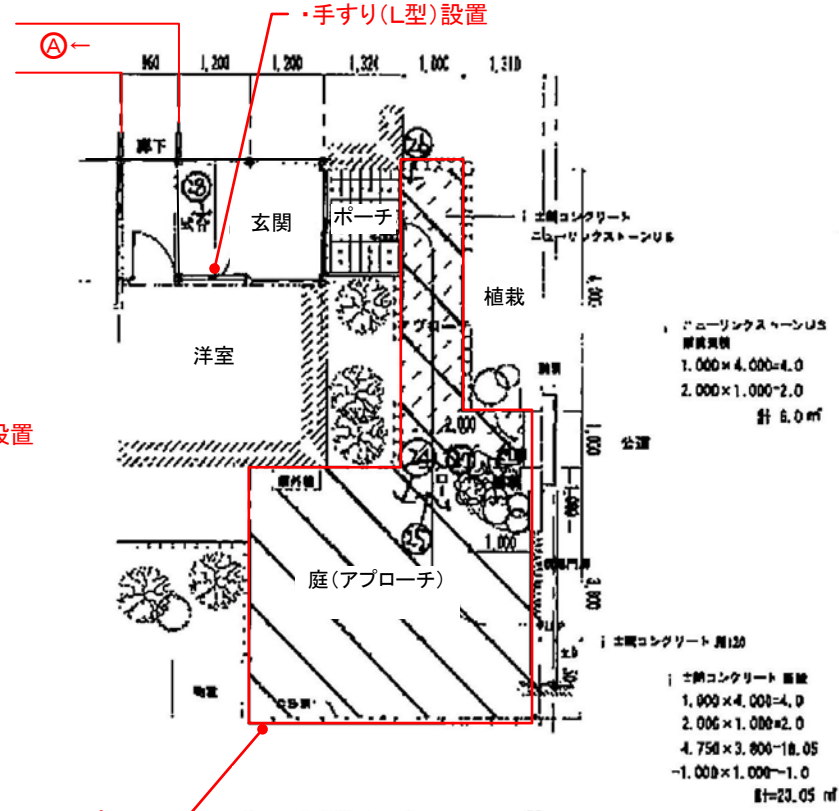
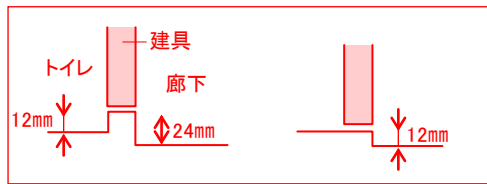
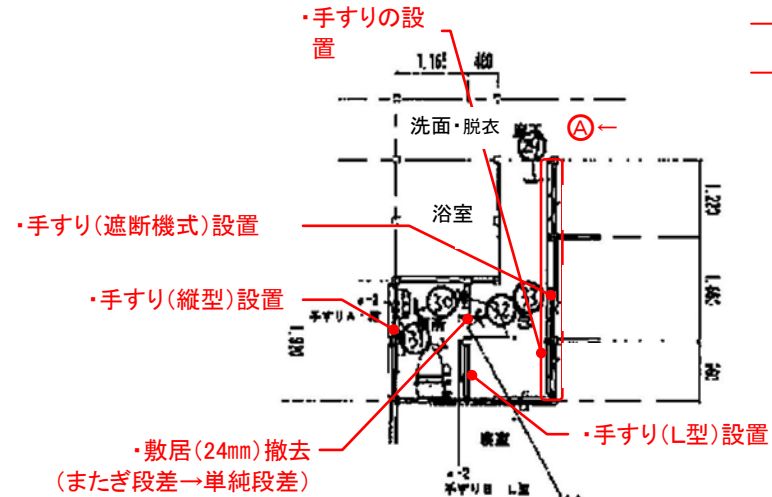


1階平面図

改修前平面図

出所:改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

改修後の図面(部位別の主な改修内容をコメント、引き出し線で注記)



改修平面図

1階平面図

改修後平面図

出所:改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

Ⅲ. バリアフリー改修の効果検証シート

Ⅲ-1 改修後の対象者本人及び家族の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
1)対象者の心身状況	病気、障害、認知症等の状況	無	
2)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	無	
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月あたりの回数、曜日)	無	
	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無	
3)対象者の生活状況	生活行動範囲	無	
	住宅での生活階/就寝場所/食事場所/日中長くいる場所/生活時の姿勢	無	
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	無	
	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	無	
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	無	
	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲/負担感等)	有	・シルバーカーを利用しての外出が容易になり、以前よりも外出機会が増えて、生き生きと暮らしている。
4)主介助者の生活状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	無	
	役割と介護内容	無	
	社会生活(就労状況、近所・友人づきあい、自由時間、外出等)	無	
	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	有	・移動時などの介助(見守り等)の負担が低減された。

Ⅲ-2 改修後の対象者本人の基本的な生活行為の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)		
1)家事の実施状況 (実施の有無／実施する場合の問題／本人が実施しない場合の実施者)	買い物	無			
	食事の支度	無			
	洗濯	無			
	掃除	無			
	その他家事	無			
2)移動方法と具 体の状況	屋内移動	無			
	屋外移動	無			
3)生活行為別の動作能力の具 体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		変化の有無	本人 ※1	介助者 ※2	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
	排泄	有	5		・トイレの出入り、トイレ動作が安全、楽にできるようになった。
	入浴	無			
	洗面	無			
	更衣	無			
	食事	無			
	就寝	無			
	移動・外出	有	5		・屋内の移動が安全かつ容易になった。 ・玄関の上がり框の昇降が楽になった。 ・手押し車を押して、一人で楽に外出できるようになった。

Ⅲ-3 改修の総合評価

1)改修の総合評価	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレと廊下の段差が解消されたことでトイレの出入りが安全に行えるようになった。また、トイレに手すりが設置されたことにより便座の立ち座りが楽にできるようになった。 ・廊下に連続して手すりを設置したことにより、移動が安全かつ容易になった(対象者が自力で移動できるようになったほか、介助者にとっても負担軽減が図られた)。 ・玄関アプローチのスロープ整備により、外出が安全かつ容易に行えるようになり、外出機会がさらに増えた。
	介助者・家族	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や玄関アプローチ部分での対象者の自力移動が安全かつ容易になったため、介助者の負担が軽減した。
2)改修による 思わぬ効果・ 生活の変化 等	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・外出機会がより増えた。
	介助者・家族	無
3)当初希望した内容が実際の改修で異なった点と理由	本人	無
	介助者・家族	無
4)改修を行った上での今後の課題	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、車いす生活となった場合の玄関段差(上がり框)の処理が必要。 ・玄関の上がり框から上がるためには、式台を廊下レベルに上げ(廊下とフラット)にして昇降機を設置することが考えられる。一方、廊下に曲がり箇所があるため、車いすでの通行に課題がある。
	介助者・家族	無

事例 20

バリアフリー改修事例シート(アセスメント・計画・効果検証)

I. バリアフリー改修に向けた現況アセスメントシート

I-1 住宅の基本属性

住所	大阪府大東市	所有区分	民間借家	所有者	民間業者
建て方	長屋建て	構造/階数	木造/平屋建て	延べ床面積	約 37.8 m ²
建築時期	(不明)	増改築暦	無		

I-2 改修前の対象者本人及び家族の状況

1)対象者と世帯の状況	対象者の氏名 (ふりがな)		年齢(生年月日) /性別	80歳 男
	同居世帯構成 (続柄、性別、年齢)	・単身世帯	非同居の家族(続柄、性別、年齢、所在地)	無
2)対象者の心身状況	身長/体重	(不明)	病気の有無/疾病名/具体的な状況	無
	身体障害の有無と具体的な状況	有 ⇒視力障害(全盲)	障害の種類/手帳の状況	有 ⇒視力障害1級
	認知症の有無と具体的な状況	無		
3)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	認定済み ⇒要支援2		
	介護サービスの利用状況 (サービス内容別の1週間、1ヶ月の回数、曜日)	・訪問ヘルパー (週1回、1回1時間程度) ・ガイドヘルパー(外出支援) (週2回、1回2時間程度)	福祉用具の利用状況 (利用内容別の貸与と購入状況)	無
4)対象者の生活状況	生活行動範囲	・住宅内全体(1階) ・週に2回は外出する。	住宅での生活階 (就寝場所、食事場所、日中長くいる場所、生活時の姿勢)	・就寝場所:1階奥の和室 ・食事場所:1階真ん中の和室 ・日中長くいる場所:1階真ん中の和室 ・生活時の姿勢:座位
	1日の標準的な生活 (起床から就寝までのタイムスケジュール)	・家の中で過ごすことが多い。	1週間の標準的な生活 (曜日別の外出行動、行先、頻度等)	・週2回(1回2時間程度)は、ガイドヘルパーの介助で外出
	社会生活 (近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	—	対象者の意欲等 (気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲/負担感等)	—
5)主介助者の状況	介助者の有無 (年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	無	役割と介護内容	無
	社会生活 (就労状況、近所・友人つきあい、自由時間、外出等)	無	介助者の負担感等 (身体的・精神的負担感等)	無

I-3 改修前の対象者本人の基本的生活行為の状況

1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	本人の実施:有 ⇒問題点:全盲のため、ガイドヘルパーの支援が必要。安全に外出するのが困難		食事の支度	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者: 配食サービスを利用、訪問ヘルパー
	洗濯	本人の実施:有 ⇒問題点:全盲のため作業が大変		掃除	本人の実施:無 ⇒問題点:全盲のため作業が大変 ⇒本人が実施しない場合の実施者: 訪問ヘルパー
	その他家事①	-		その他家事②	-
2)移動方法と具体の状況	屋内移動	歩行移動 ⇒ゆっくりとつたい歩き (近距離は座ったまま移動)		屋外移動	歩行移動 ⇒ガイドヘルパーの介助
3)生活行為別の動作能力の具体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		本人※1	介助者※2	具体の状況:(例:手すりを使い、トイレに行くことと排泄行為は自立、衣類の着脱のみ介助が必要。)	
	排泄	4		・トイレまでの移動は、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・排泄動作はゆっくりであるが一人で何とかできる。 ・手洗いは自立してできる。	
	入浴	4		・浴室までの移動や浴室への出入りは、ゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・浴槽への出入りはゆっくりであるが一人で何とかできる。 ・入浴動作は自立してできる。	
	洗面	4		・洗面所までの移動はゆっくりとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・洗面動作ははずで自立している。	
	更衣	4		・一人で何とかできる。	
	食事	3 (食事) 4 (移動)		・食事は軽度の介助が必要で、訪問介護ヘルパーによる介助を受けている。 ・料理は配食サービスを利用している。 ・食卓への移動は、一人で何とかできる。	
	就寝	5		・問題なし	
	移動・外出	4		・屋内の移動は、つたい歩きで、一人で何とかできる。 ・屋外の移動は、白杖による歩行で、ガイドヘルパーの介助を利用している。	

I-4 改修前の住宅の状況と問題点(部位別)

部位	住宅の具体的な状況と問題点
1)寝室	無
2)便所	<ul style="list-style-type: none"> ・便所と洗面所との床レベルの段差(10 mm)がある。手すりもないため、トイレ動作が不安定。 ・和式なので便器からの立ち上がり動作が困難。 (手製の据え置き型ポータブルトイレを置くことで、座って使用できるように対応している。)
3)浴室	<ul style="list-style-type: none"> ・浴室出入り口に手すりがないため、浴室への出入りが不安定で危険。 ・浴室と洗面所との床レベルの段差(25 mm)があり、浴室への出入りが危険。
4)洗面・脱衣室	<ul style="list-style-type: none"> ・洗面所と和室(寝室)の床レベルの段差(15 mm)があり、移動が危険。
5)食堂・台所	無
6)居間	無
7)廊下	無
8)階段	無
9)玄関	<ul style="list-style-type: none"> ・上がり框の段差(和室と式台が 80 mm、式台と玄関土間 320 mm)があり、昇降が危険。 ・手すりがないため、柱にぶつかることが多々あり危険。
10)玄関から前面道路までのアプローチ	無
11)その他	無

Ⅱ. バリアフリー改修の計画シート

Ⅱ-1 改修に対する要望と目的

1)改修に対する要望	対象者からの具体的要望	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や風呂等に手すりがなく、柱にぶつかったり、段差で落ちたりすることがあるため、安全に移動ができるようにしたい。 ・トイレが和式で使いにくいいため、洋式便器としたい。 		
	介助者や同居家族からの具体的要望	無		
2)改修の目的 ※最大の目的に◎、関係する目的に○を記入	対象者のための改修の目的※	◎	①日常生活行動能力の維持	具体的内容： ・段差の解消と手すりの設置による、移動の安全性の確保 ・トイレ動作の安全性・容易性の確保
		◎	②移動や動作の安全性の確保	
		○	③移動や動作の容易性の確保	
		○	④生活行動範囲の確保・拡大	
		○	⑤その他()	
	家族のための改修の目的※	◎	⑥介護・介助負担の軽減	具体的内容：
	◎	⑦その他()		

Ⅱ-2 改修のプロセス

1)専門家の関与	関わった専門家の職種と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー1名：改修内容に対するアドバイス(通常の改修ではほとんど意見を言わないが、この事例ではケアマネジャーから適宜アドバイスを受けながら検討を進めた) ・市の理学療法士(PT)(1名)：対象者のADL確認、改修案の提示 ・建築士2名：改修案の作成、仕様書作成
	専門家間の意見調整により決定・変更した点	<ul style="list-style-type: none"> ・市のPTは、建築士が立ち会う以前に、対象者本人と直接面談し、相談済み。改修内容のコンセプトをあらかじめ検討している。 ・その後、市のPTの作成した対象者のADLを確認。また、改修内容のコンセプトはPTから建築士に口頭で伝えられ、PTと建築士が具体的な改修内容や工事方法を検討。現地調査で対象者に確認を取りながら改修内容を決定していった。 ・改修内容については、PTが作成した当初の改修内容コンセプトからほとんど変更しなかった。
2)検討の技術的プロセス	本人の身体状況の将来変化に向けて配慮した点	・手すりを各所に極力設置することで、下肢の弱化に対応できるようにした。
	同居家族のために配慮した点	無
	外部からの介護サービス者のために配慮した点	無
	シミュレーションの実施の有無と具体の状況	無
	福祉器機、設備等の試し使い等の有無と具体の状況	無
	空間・予算等の制約により苦労した点	無
	空間・予算等の制約により実現できなかった点	・浴室と洗面所の床レベルの段差解消はできなかった。

II-3 スケジュールと費用

1)検討スケジュール	相談経緯と相談期間	・担当ケアマネジャーから市のPTに相談があった。 ・PTが初回訪問後、建築士と同行訪問し、住宅改修相談を受けた。	・訪問回数6回 ・実際は、PTの相談開始から完了(H23.2)まで実際には半年程度を要している
	設計期間	・改修設計期間:2日	
	工事期間	・改修工事期間 :7日 ・工事内容確認評価:1日	
2)費用	当初予算額	—	
	工事費総額と費用負担額	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費総額:約54.7万円(※高齢者等居住安定化推進事業分のみ) ・自己負担額:約9.6万円 ・補助金等:高齢者等居住安定化推進事業補助金 約27.1万円、介護保険住宅改修(ポーチの手すりの設置、側溝の蓋の交換) 18万円 ・建築設計料・工事監理料:24万円(内、補助金16万円) 	

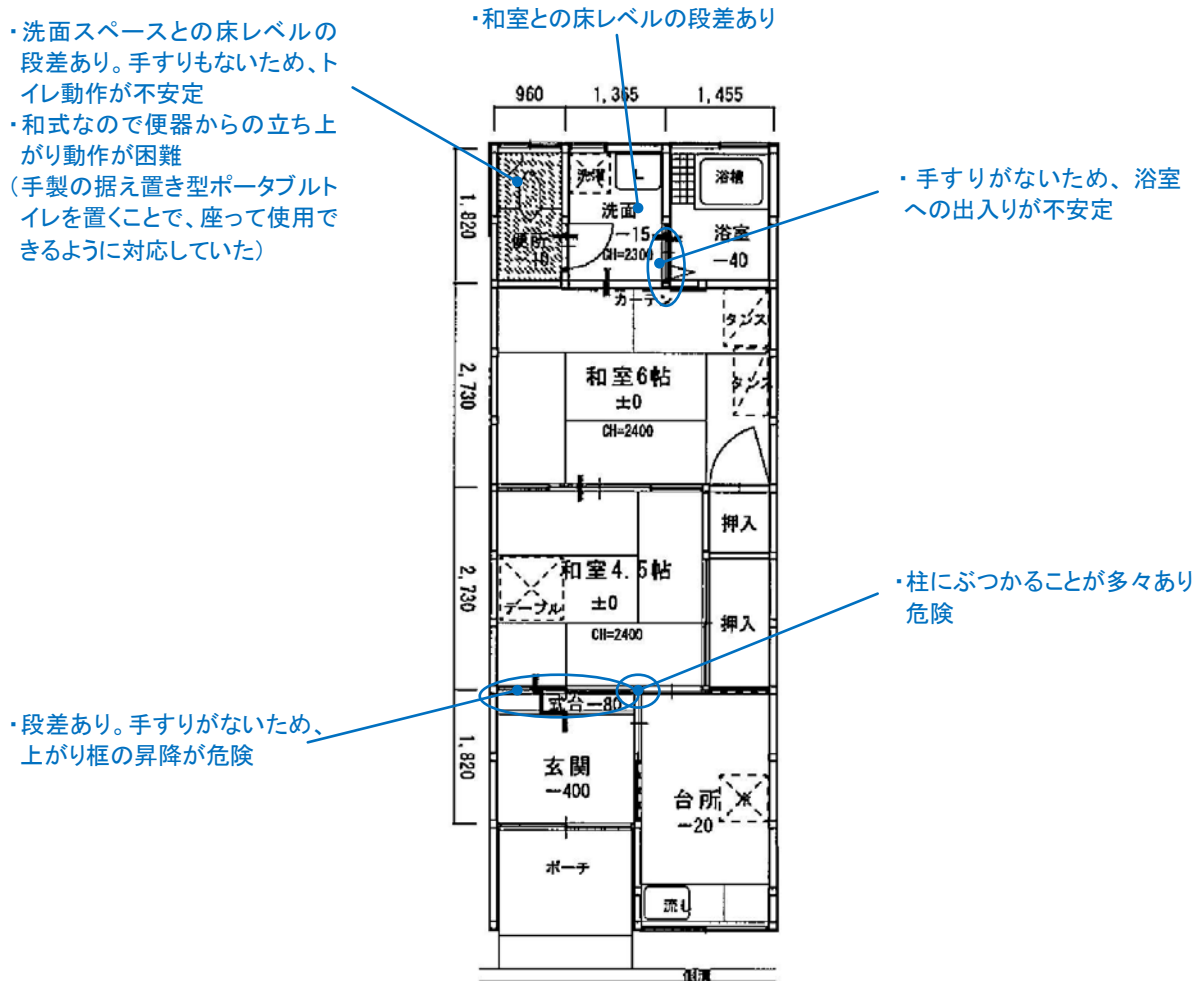
II-4 改修の具体的内容と技術的工夫点(部位別)

(※改修の目的は、改修の具体的内容別にII-1 2)改修の目的の①～⑦から番号を選択して記入)

部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
1)寝室			
2)便所		<ul style="list-style-type: none"> ・和式便器から洋式便器に変更。 ・手すりの設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の動作能力をシミュレーションし、L型手すりを設置
		・トイレの床の嵩上げ(10 mm)により、洗面所との段差を解消。	・視覚障害と下肢能力の低下を考慮し、完全にフラットな床とした
3)浴室		・手すりの設置。	・視覚障害と下肢能力の低下を考慮し、できる限り全移動範囲に手すりを設置
4)洗面・脱衣室		・洗面所の床の嵩上げ(15 mm)により、居室との段差を解消	・視覚障害と下肢能力の低下を考慮し、完全にフラットな床とした
5)食堂・台所			
6)居間			
7)廊下			
8)階段			
9)玄関		・玄関から台所につながる出入り口をふさぎ、手すり(L型)設置(その他浴槽にいたるまで出来る限り、横手すりを設置)。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害と下肢能力の低下を考慮し、できる限り全移動範囲に手すりを設置 ・手すりを設置するため、玄関から台所につながる出入り口を壁としてふさいだ。
10)玄関から前面道路までのアプローチ		・手すりの設置	・視覚障害と下肢能力の低下を考慮し、できる限り全移動範囲に手すりを設置
11)その他		・玄関脇の柱にぶつかることが多かったため、30 cm角程度のカーペットを敷くことで注意喚起を行うようにした	

II-5 改修前後の図面

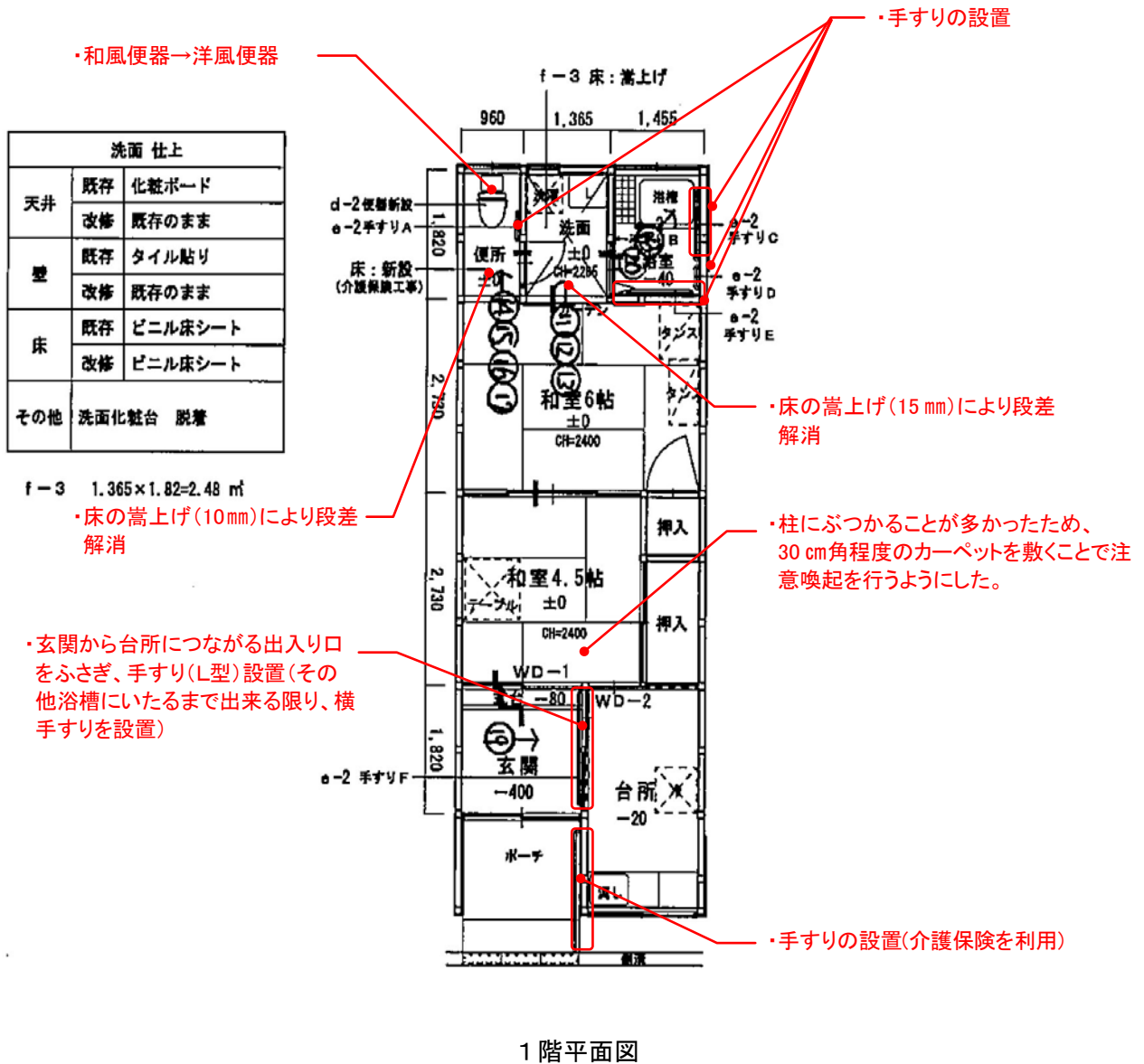
改修前の図面(部位別の主な問題点等をコメント、引き出し線で注記)



1階平面図

改修前平面図

出所:改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成



改修後平面図

出所: 改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成

Ⅲ. バリアフリー改修の効果検証シート

Ⅲ-1 改修後の対象者本人及び家族の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
1)対象者の心身状況	病気、障害、認知症等の状況	無	
2)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	無	
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月あたりの回数、曜日)	無	
	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無	
3)対象者の生活状況	生活行動範囲	無	
	住宅での生活階／就寝場所／食事場所／日中長くいる場所／生活時の姿勢	無	
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	無	
	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	無	
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	無	
	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲／負担感等)	有	・安心して外出できるようになり、外出機会が増えた。
4)主介助者の生活状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	無	
	役割と介護内容	無	
	社会生活(就労状況、近所・友人つきあい、自由時間、外出等)	無	
	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	無	

Ⅲ-2 改修後の対象者本人の基本的な生活行為の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)		
1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	無			
	食事の支度	無			
	洗濯	無			
	掃除	無			
	その他家事	無			
2)移動方法と具 体の状況	屋内移動	無			
	屋外移動	無			
3)生活行為別の動作能力の具 体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		変化の有無	本人※1	介助者※2	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
	排泄	有	5		・トイレへの移動が安全で楽になった。 ・排泄動作が安全、容易になった。
	入浴	有	5		・浴室への移動が安全で楽になった。 ・入浴動作が安全で容易になった。
	洗面	有	5		・洗面所への移動が安全で楽になった。
	更衣	無			
	食事	無			
	就寝	無			
	移動・外出	有	5		・安全に楽に外出できるようになった。

Ⅲ-3 改修の総合評価

1)改修の総合評価	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、排せつ動作が安全に行えるようになった。特に排せつ動作が楽になった。 a)浴室の手すりの設置により、安全に入浴動作が行えるようになった。 b)和式トイレから洋式トイレの変更に、トイレ動作が楽に行えるようになった。また、トイレの手すりの設置により、便座の立ち座りが楽になった。 c)洗面所の床とトイレ、居室との段差がなくなったことにより、トイレや浴室への移動が安全にできるようになった。 ・玄関の手すりの設置により、安全に外出できるようになった。
	介助者・家族	無
2)改修による 思わぬ効果・ 生活の変化 等	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・外出が容易になったため、外出機会が以前よりも増えた。
	介助者・家族	無
3)当初希望した内容が実際の改修で異なった点と理由	本人	無
	介助者・家族	無
4)改修を行った上での今後の課題	本人	無
	介助者・家族	無

事例 21

バリアフリー改修事例シート(アセスメント・計画・効果検証)

I. バリアフリー改修に向けた現況アセスメントシート

I-1 住宅の基本属性

住所	大阪府大東市	所有区分	持ち家	所有者	対象者の夫(既に死亡)
建て方	戸建て	構造/階数	木造/2階	延べ床面積	—
建築時期	(昭和50年頃)	増改築暦	・トイレの洋式化、浴室工事(改修時期不明) ・浴室、DK、廊下、トイレ、居室に手すりの設置(一部は介護保険を利用、一部は長男の負担による改修。改修時期不明)		

I-2 改修前の対象者本人及び家族の状況

1)対象者と世帯の状況	対象者の氏名(ふりがな)		年齢(生年月日)/性別	86歳 女
	同居世帯構成(続柄、性別、年齢)	・単身世帯	非同居の家族(続柄、性別、年齢、所在地)	・長男家族が同一市内に住んでいる。
2)対象者の心身状況	身長/体重	(不明)	病気の有無/疾病名/具体的な状況	有 ⇒両下肢筋萎縮症
	身体障害の有無と具体的な状況	無	障害の種類/手帳の状況	無
	認知症の有無と具体的な状況	無 (少し耳が遠く、話の内容を取り違えていることがあった。少しコミュニケーション能力が落ちている感はある。)		
3)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	認定済み ⇒要支援2		
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月の回数、曜日)	・通所介護(週1回・1回6時間程度。内容:入浴、食事、レクリエーション) ・訪問介護(週1回・1回1時間程度。内容:食事、掃除、洗濯、買い物)	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	・特殊寝台(電動ベッド) ・手すり ・歩行器(固定式歩行器) ・歩行補助杖
4)対象者の生活状況	生活行動範囲	・住宅1階。 ・寝室(居室)にベッドを置き生活	住宅での生活階(就寝場所、食事場所、日中長くいる場所、生活時の姿勢)	・就寝場所:1階真ん中の部屋(本人の居室) ・食事場所:1階DK ・日中長くいる場所:寝室(居室) ・生活時の姿勢:寝室にベッドを置きそこにいることが多い。
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	・家の中で過ごす	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	・通所介護(デイサービス)へ週1回行っている。
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	・近所つきあいがあり、近所からの見守りもある。	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲/負担感等)	・本人の意志により、頑張っ一人暮らしを続けている。
5)主介助者の状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	有 ⇒同一市内に居住する長男及び長男の嫁(介助者の身体状況:長男及び嫁ともに健康。)	役割と介護内容	・基本はヘルパー利用。 ・長男及び長男の嫁は、見守りと食事介助、後見程度。
	社会生活(就労状況、近所・友人づきあい、自由時間、外出等)	・長男及び長男の嫁ともに働いており、普通の社会生活を送っている。 ・子育ても有り、自由時間は多くは無い。	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	・ヘルパーの利用を基本としているため、特に大きな負担は感じていない。

I-3 改修前の対象者本人の基本的生活行為の状況

1)家事の実施状況 (実施の有無/実施する場合の問題/本人が実施しない場合の実施者)	買い物	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:訪問ヘルパー		食事の支度	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:訪問ヘルパー、義娘(長男の嫁)
	洗濯	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:訪問ヘルパー		掃除	本人の実施:無 ⇒問題点:特になし ⇒本人が実施しない場合の実施者:訪問ヘルパー
	その他家事①	-		その他家事②	-
2)移動方法と具体の状況	屋内移動	歩行移動 ⇒固定式歩行器もしくは家具等につかまっのつたい歩き		屋外移動	歩行移動 ⇒歩行補助杖を使っの移動
3)生活行為別の動作能力の具体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		本人 ※1	介助者 ※2	具体の状況:(例:手すりを使い、トイレに行くことと排泄行為は自立、衣類の着脱のみ介助が必要。)	
	排泄	4		・トイレまでの移動は、ゆっくとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・排泄動作はゆっくりであるが一人で何とかできる。 ・手洗いは自立してできる。	
	入浴	4		・浴室までの移動や浴室への出入りは、ゆっくとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・浴槽への出入りはゆっくりであるが一人で何とかできる。 ・入浴動作は自立してできる。 (週1回はデイサービスで入浴)	
	洗面	4		・洗面所までの移動はゆっくとつたい歩きにより一人で何とかできる。 ・洗面動作は自立している。	
	更衣	4		・一人で何とかできる。	
	食事	3		・一部の介助や見守りが必要で、訪問介護ヘルパーによる介助を受けている。 ・食卓への移動は、一人で何とかできる。	
	就寝	4		・ベッドを利用しているが、起き上がり等も一人で何とかできる。	
	移動・外出	4		・屋内の移動は、家具等につかまっのつたい歩き、又は、固定式歩行器の利用により、一人で何とかできる。 ・屋外の移動は、歩行補助杖を利用。	

I-4 改修前の住宅の状況と問題点(部位別)

部位	住宅の具体的な状況と問題点	
1)寝室	<ul style="list-style-type: none"> ・寝室(中央和室)と廊下の間に段差(65 mm)があり、危険。 ・寝室(中央和室)と台所の間に段差(50 mm)があり、危険。 ・台所との間の引き戸が全面ガラス戸のため危険が大きい。 ・廊下との間の引き戸が全面ガラス戸のため危険が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで様々な改修を行うたびに至る所に段差がある。 ・段差が多いため固定式歩行器で住宅内を十分移動できない。テーブルやイス等の家具を使いながらつたい歩きをしており、固定式歩行器は手すりから手すりのつなぎにしか使えていない。
2)便所	<ul style="list-style-type: none"> ・便所と廊下の間に段差(55 mm)がある。 	
3)浴室	無	
4)洗面・脱衣室	無	
5)食堂・台所	<ul style="list-style-type: none"> ・台所と廊下の間に段差(15 mm)があり、危険である。 	
6)居間	<ul style="list-style-type: none"> ・和室(玄関脇)と廊下の間に段差(65 mm)があり、危険である。 	
7)廊下	無	
8)階段	無	
9)玄関	無	
10)玄関から前面道路までのアプローチ	無	
11)その他	無	

Ⅱ. バリアフリー改修の計画シート

Ⅱ-1 改修に対する要望と目的

1)改修に対する要望	対象者からの具体的要望	<ul style="list-style-type: none"> ・段差が多く、歩行器での移動が大変なため、移動を容易にしたい(建築士が立ち会う以前の市のPTによる事前相談)。 ・市内に新築のケア付き高齢者向けマンションへの入居も検討したが、住み慣れた自宅で少しでも長く生活したいという重いが強いため、安全に住み続けられるような改修工事として(資金的には余裕あり)。 		
	介助者や同居家族からの具体的要望	<p><長男の嫁></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長男の嫁が毎回打合せに同席しており、「安全な移動のために、床段差を解消してほしい」という要望があり、対象者本人に確認していた。 (・また、長男の嫁から「玄関土間から上がり框への上り下りを安全にしてほしい」という要望があったため、玄関土間の段差を小分割して、階段+手すりとする案を提案したが、対象者の意向により実現しなかった。) 		
2)改修の目的 ※最大の目的に◎、関係する目的に○を記入	対象者のための改修の目的※	◎	①日常生活行動能力の維持	具体的内容: ・床段差の解消による、移動の安全性の確保 ・トイレ動作の安全性・容易性の確保
		◎	②移動や動作の安全性の確保	
		○	③移動や動作の容易性の確保	
		○	④生活行動範囲の確保・拡大	
		○	⑤その他()	
	家族のための改修の目的※	◎	⑥介護・介助負担の軽減	具体的内容: ・
○		⑦その他()		

Ⅱ-2 改修のプロセス

1)専門家の関与	関わった専門家の職種と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー(初回訪問のみ同行) ・市の理学療法士(PT):建築士が立ち会う以前の相談。改修内容コンセプト検討。ADL確認。改修内容や工事方法の検討。 ・建築士(2名):改修内容や工事方法の検討。 ・改修設計実施団体の理学療法士(PT):改修の評価等の実施。 		
	専門家間の意見調整により決定・変更した点	<p><役割・調整方法等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のPTが、建築士が立会う初回訪問以前に、対象者本人や家族と直接面談し、相談済み。改修内容のコンセプトをあらかじめ検討していた。 ・建築士が同行して現地訪問時に意見交換を行い、建築士が専門的建築から検討し、PTへ提案図を提出。 ・その後、建築士が気づいた点があれば、随時市のPTへ相談している。 <p><建築士が関わったことで決定・変更された点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修内容は市のPTと対象者で概ね検討済みであるが、実現可能性や具体の仕様や工事方法等は建築士が検討し、決定している。 ・段差解消については、DKの床レベルに合わせることにした。 ・全面ガラス戸のため危険が大きいことから、建具のガラスを樹脂ガラスに変更した。 		
2)検討の技術的プロセス	本人の身体状況の将来変化に向けて配慮した点	無 (対象者が一人での入浴が不可能となったら、ケア付き高齢者向け住宅(施設)への住み替えを検討する)		
	同居家族のために配慮した点	無 (対象者が一人での入浴が不可能となったら、ケア付き高齢者向け住宅(施設)への住み替えを検討する)		
	外部からの介護サービス者のために配慮した点	無 (近隣の見守りやヘルパー等のサービスの出入りがあるが、これまでは訪問のたびに本人が段差のある居室内を動いて解錠するのが大変なので、いつも玄関錠は開けていた。)		
	シミュレーションの実施の有無と具体の状況	無		
	福祉器機、設備等の試し使い等の有無と具体の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行器の使用体験を実施(市のPTと担当ケアマネジャーが立ち会い)。 ・歩行器の使い方と選定に改善の余地があった(ベッドから手すり移動。廊下で歩行器を利用してトイレへ。)ことから、セラピスト(PT)のアドバイスで便利なタイプをベッド脇に置き、そのまま行きたい所へ移動することになった。 		

空間・予算等の制約により苦労した点	無
空間・予算等の制約により実現できなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・長男の嫁からは、玄関土間から上がり框への上り下りを安全にしたいという要望があったことから、玄関土間の段差を小分割して、階段+手すりとする案を提案したが、対象者の意向により実現しなかった。 ⇒玄関には手すりがあるほか、固定されていない踏み台やガタガタのイス(デイサービスの迎えを待つために必要)があり、専門家は改修工事を行った方がスムーズと判断している。しかし、体に不具合を抱える対象者本人の方が、自分の納得する体のだまし方を分かっていることから、最終的に対象者の意向を尊重し改修工事は実施しなかった。 ・浴室と洗面所の床レベルの段差解消はできなかった。

II-3 スケジュールと費用

1)検討スケジュール	相談経緯と相談期間	<ul style="list-style-type: none"> ・担当ケアマネジャーから市に相談があり、市のPTが初回訪問を実施。 ・その後、NPO福医建の建築士とPTが同行訪問にて改修相談を受けた。 ・平成22年11月18日:初回訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問回数:7回 ・内容は、施工業者への現場説明(工事内容・見積説明)、補助事業書類作成・押印契約同席、追加工事希望の対応 ・PT単独2回、建築士と同行2回、建築士単独1回、NPOPT2回。
	設計期間	・改修設計期間:2日	
	工事期間	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事期間 :平成23年2月14日~26日 (2回訪問) ・工事内容確認評価:平成23年2月末 (1日) 	
2)費用	当初予算額		
	工事費総額と費用負担額	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費費用:約84.8万円 ・自己負担額:約40万円 ・補助金等:ケア連携型バリアフリー改修補助事業補助金 約37.8万円、介護保険住宅改修 約7万円 ・建築設計料・工事監理料:24万円(内、補助金16万円) 	

II-4 改修の具体的内容と技術的工夫点(部位別)

(※改修の目的は、改修の具体的内容別にII-1 2)改修の目的の①~⑦から番号を選択して記入)

部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
1)寝室	② ③	・和室2室の一室化(和室2室間の敷居を撤去)。和室(畳)から洋室(フローリング)への変更。	・歩行器でスムーズに動けるよう配慮し、畳からフローリングに変更した。
		・廊下、台所との間の床レベルの解消・廊下、台所との間の敷居段差の解消。	<ul style="list-style-type: none"> ・寝室をフローリングにすることから、DKの床レベルを基準として、寝室の床レベルを下げることで段差を解消した。 ・敷居レールを埋め込み、歩行器でスムーズに動けるよう配慮した。
		・床への断熱材の敷設。	・畳からフローリングへの変更のため、足元の冷たさの防止に配慮し、断熱材を敷設した(床暖房の導入も検討したが、対象者が不要と言ったため導入しなかった)。
		・廊下との間の建具のガラスを樹脂ガラスに変更。 ・建具改修。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で動くように戸車付きに変更した。 ・床レベルの変更により建具の背が足りなくなったため接木して、既存の建具を再利用することとした。
2)便所	② ③	・便座の高さの変更。	<ul style="list-style-type: none"> ・床段差解消時に取り外した便器の脚元を耐水合板でかさ上げし、ソフト幅木で化粧仕上げとした。 ・対象者は大柄で下肢の力がない。便座からの立ち上がりの様子をセラピスト(PT)が確認して、高さを決定した。
		・敷居レベルの変更、廊下との間の段差解消。	・歩行器でスムーズに動けるよう配慮した。

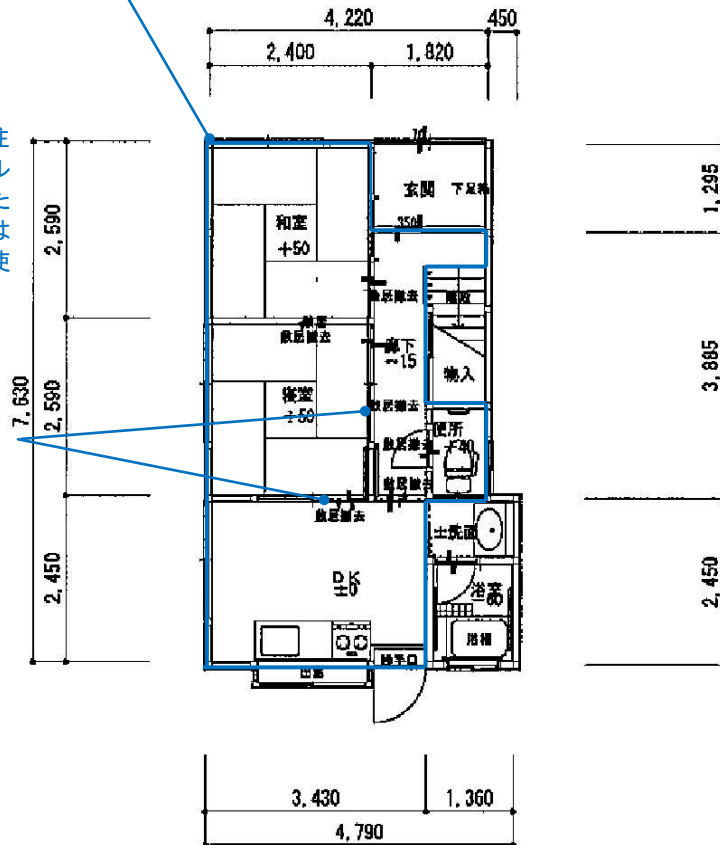
部位	改修の目的※	改修の具体的内容	建築士やケアの専門家が関わったことによる技術的工夫点
3)浴室			
4)洗面・脱衣室			
5)食堂・台所	②	・寝室(居室)との間の建具のガラスを樹脂ガラスに変更。 ・建具改修。	・安全で動くように戸車付きに変更した。 ・床レベルの変更により建具の背が足りなくなったため接木して、既存の建具を再利用することとした。
6)居間			
7)廊下	② ③	・寝室、台所との間の床レベルの解消。 ・寝室、台所との間の敷居段差の解消。	・DKの床レベルを基準として、廊下の床レベルを上げることで段差を解消した。 ・敷居レールを埋め込み、歩行器でスムーズに動けるよう配慮した。
8)階段			
9)玄関			
10)玄関から前面道路までのアプローチ			
11)その他			

II-5 改修前後の図面

改修前の図面(部位別の主な問題点等をコメント、引き出し線で注記)

- ・これまで様々な改修を行うたびに
する所に段差あり
居室(寝室・和室)ー廊下: 65 mm
居室(寝室・和室)ー台所: 50 mm
廊下ートイレ: 55 mm
廊下ー台所: 15 mm
- ・段差が多いため固定式歩行器で住
宅内を十分移動できない(テー
ブルやイス等の家具を使いなが
らつたい歩きをしており、固
定式歩行器は手すりから手
すりのつなぎにしか使えて
いない)

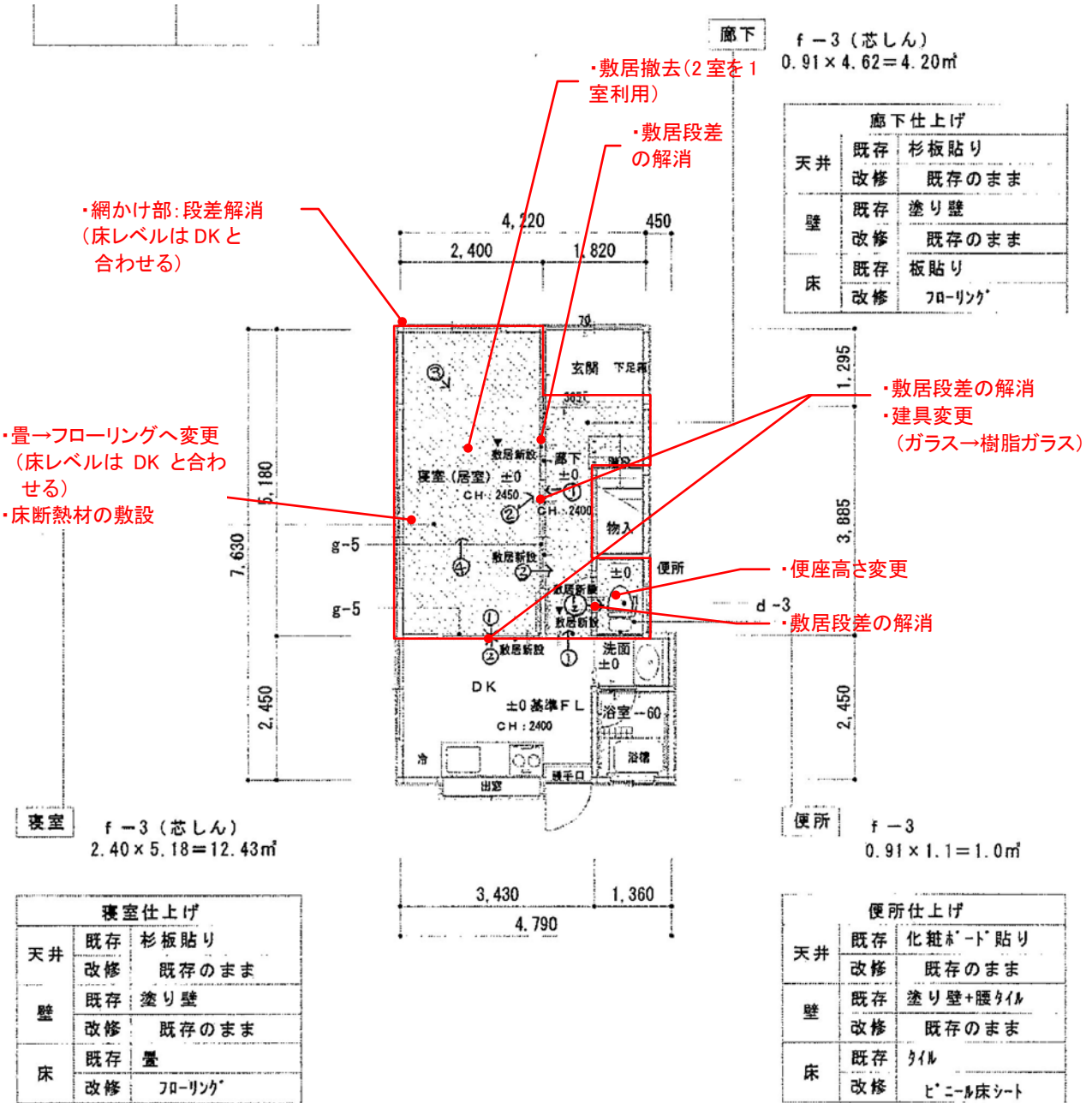
- ・全面ガラス戸のため危険が大
きい



1 階平面図

改修前平面図

出所: 改修設計実施団体の提供資料に加筆して作成



←○ 写真方向を示す

▼注) 寝室から廊下、DKから廊下への二枚の片引き戸部分の敷居撤去と建具補修(接木及びフックレベル戸車共)については介護保険+自費で改修のため、補助対象外

改修後平面図

Ⅲ. バリアフリー改修の効果検証シート

Ⅲ-1 改修後の対象者本人及び家族の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
1)対象者の心身状況	病気、障害、認知症等の状況	無	
2)対象者の介護状況	介護認定状況・要介護度	有	・要介護1に悪化
	介護サービスの利用状況(サービス内容別の1週間、1ヶ月あたりの回数、曜日)	無	
	福祉用具の利用状況(利用内容別の貸与と購入状況)	無	
3)対象者の生活状況	生活行動範囲	無	
	住宅での生活階／就寝場所／食事場所／日中長くいる場所／生活時の姿勢	無	
	1日の標準的な生活(起床から就寝までのタイムスケジュール)	無	
	1週間の標準的な生活(曜日別の外出行動、行先、頻度等)	無	
	社会生活(近所付き合い、相互に訪ねあう友人、訪問してくる友人等)	無	
	対象者の意欲等(気持ち・意欲・生活態度・自立への意欲／負担感等)	無	
4)主介助者の生活状況	介助者の有無(年齢、性別、対象者との続柄、健康状況)	無	
	役割と介護内容	無	
	社会生活(就労状況、近所・友人つきあい、自由時間、外出等)	無	
	介助者の負担感等(身体的・精神的負担感等)	無	

Ⅲ-2 改修後の対象者本人の基本的生活行為の状況と改修前との変化

		変化の有無	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)		
1)家事の実施状況 (実施の有無／実施する場合の問題／本人が実施しない場合の実施者)	買い物	無			
	食事の支度	無			
	洗濯	無			
	掃除	無			
	その他家事	無			
2)移動方法と具 体の状況	屋内移動	無			
	屋外移動	無			
3)生活行為別の動作能力の具 体の状況 【本人※1】 1: できない・しない 2: ほぼ全介助が必要 3: 一部の介助や見守りが必要 4: 一人で何とかできる 5: 一人で楽にできる 【介助者※2】 1: 介助が大変 2: 何とか介助できる 3: 安全で楽に介助できる		変化の有無	本人※1	介助者※2	改修前との変化と改修後の状況 (改修後に変化があった場合について記入)
	排泄	有	5		・トイレへの移動が安全で楽になった。 ・排泄動作が安全、容易になった。
	入浴	無			
	洗面	無			
	更衣	無			
	食事	有	5		・食堂(食卓)への移動が安全で楽になった。
	就寝	無			
	移動・外出	有	5		・歩行器で安全かつ容易に移動できるようになった。

Ⅲ-3 改修の総合評価

1)改修の総合評価	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・改修前後で要介護度が悪化したのが、改修により歩行器での生活ができています。 ・寝室居室からDK・廊下・トイレへの段差がなくなったため、歩行器で安全かつ容易に移動できるようになった。また、居室の建具のガラスを樹脂ガラスに変更したことで、安心して歩行器で移動できるようになった。 ・トイレの便座高さを嵩上げしたことで、トイレの立ち座りが楽にできるようになった。 ・床に断熱材を設置したことで、床からの冷えを防止することができている。 ・建築士は改修後、4月に補助事業の書類作成のため訪問。その際、新しい歩行器の利用の様子を見て、床段差がなくなった効果を確認した。
	介助者・家族	無
2)改修による 思わぬ効果・ 生活の変化等	本人	無
	介助者・家族	無
3)当初希望した内容が実際の改修で異なった点と理由	本人	無
	介助者・家族	無
4)改修を行った上での今後の課題	本人	無
	介助者・家族	無

その他

<p>【建築士の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い木造住宅であり、床が冷たいようであるため、寒さを軽減するために床暖房の導入を提案したが、予算の都合上、導入できなかった。年金生活ではあるが、高齢者向けマンションへ等への住み替えも検討するなど経済的には余裕もあると考えられるため、もう少し強く必要性を訴えるべきであった。おそらく貯蓄を崩さない範囲で改修することを考えてのことだと思われる(本人とじっくり関われる時間が十分にとれなかったのが反省点である)。改修工事前にホットカーペットなどは使用していなかったが、もし使用していれば、要望が違っていたと思われる。 ・ひとり暮らしで在宅意欲が強く、本人も頑張っているケースであり、長男、義娘(嫁)、ケアマネジャー、セラピスト(PT)が支えているが、将来的には高齢者向けマンションへ等への住み替えを想定しているため、改修費用はある程度の範囲内に収まらざるを得ないケースであった。
